

て參つたと云つても宜い。さう云ふ譯でありますからして、従つて今日までも職業指導と云ふことに付ても、一定した定義と云ふものが殆ど無いと云つても宜いと思ひます。また各州に於ても違ふ、各國に於ても違ふ、また學者側の言ふことも違ふ斯う云ふ風に色々になつて居りますが、茲に其の二三例を申して見たいと思ひます。

一体今日、職業指導と云ふ言葉は、ヴォーケーショナル、ガイダンス、のヴォケーショナルは、元來、其の人の性質、其の人の能力に適當した職業と云ふ意味が入つて居る。獨逸ではさう云ふやうな言葉が無いと見えましてベールトウングと稱して居りまして、特別の言葉を使つて居りませぬが、亞米利加では生業、それから普通の職業と云ふ意味以外に、言葉それ自身に性質能力に適當した職業と云ふヴォーケーショナルと云ふ言葉があるのは甚だ幸であると思ひます。其の文字から見ましても異つて居りますが、此處に職業指導に付て非常に力を入れて説いて居る人の中に、コロンビヤ大學 パーンス教授と云ふ人がありますが、其の人の説に依りますと云ふとヴォーケー

ショナルガイダンスを三つに分けて居ります。それはワイズチョイスオブオキユベーション——職業の賢明なる選擇と云ふことであります、それからアダプテーション、人格なり品性、其の人の能力（キャパシティ）に順應して行つた職業を擇ぶ、それから後に豫期される所の方面、それから物質と精神的、社會的此の三つの方面、之に付ての知識を與へる。さうして之に成る可く好いもの、その小供に適當したものを選擇してやる、是が即ち職業指導であると云ふのであります。それから米國勞働年報第二十五にはさう云ふことを言つて居るか云ふと、ヴォーケーショナルガイダンスと云ふことは小供のために單に職業を選擇してやることでもなく、單に職業を與へてやることではない、其の外に其の兒童及び兩親に職業選擇のことに付て充分に考へるやうに導いてやるのが其の一つである。それから兒童の趣味と可能性を研究してやる、可能性即ち其の人のキャパシティ即ち能力であります。そして最も適當であると思ふものを決定してやる。それから又更に其の職業に就くに必要である所の準備をしてや

る、或は多少のトレーニング、勤勉教育を施してやつて行くことも職業指導の中に入るのだと、斯う云ふ風にも申して居ります。それから一昨日持つて参りました書物の中で、今度目録を差上げる中にありますが、ブリウアー、此人のヴォーケーションナル、ガイダンス、ムーブメントと云ふ本がありますが、此本の中に定義として擧げてありますが、是が先づ私は一番適當でなからうかと思ふのであります。斯う云ふことを云つて居る。「職業指導とは職業に関する知識と、それから個人を知つて居つて、且つそれに就て色々調査研究したことを基礎として、其の個人が職業を選択する際に、また職業の準備をする際に、――準備と云ふのは例へば是は小學校から向ふ上の學校に入る際に日本で言へば商業學校に入つたが宜いか農業學校に入つたが宜いか、或は中等學校に入るが宜いかと云ふやうな將來の職業を選定する譯でありますから、日本のやうに何でも彼でも中學校へ入れば宜いと思ふのは間違つたことではありません。それから職業に就く時、或は職業の發展を期するために（即ち自分の職業は現在

の職業より有利にする、或は夜學校とか或は工場を變へることも必要なことが起つて参りませう。或は現在の仕事に不適當であつたならば職業を變へることも必要でありませう。其の職業の發展を期するに際して是が私の此の間申しました現在職業に従事して居る者の指導になります。之に必要な知識、或は注意を與へる、或はまた協力を與へる所の組織的努力である、「斯う云ふ風に申して居ります。もう一度申します。「職業指導とは職業に関する知識と個人を熟知し、且つ之を調査研究したことを基礎として、各人が職業を選択する際、それから職業に就く準備をする際、或は職業に就く時、或は職業の發展を期するために、之に對する知識、協力を與へる組織的努力である。」斯う云ふ風に申して居ります。尙ほ此の外のことにも必要でございますけれども、先づ大体是で私の申上げたいと思ふことが終りましたから之で私の話は終ることに致します。

東京高等師範學校教授 綿貫哲雄述

第四篇 文化史より見たる職業の變遷

第一 緒言

私は社會が段々に發達しますに就きまして職業と云ふものがどう云ふ風に變つて來たかと云ふこと、それからその職業の變化と云ふことは社會的に見てどう云ふやうな意味を持つて居るかと云ふやうなことを述べて見たいと思ふ。

凡そ人間の總ての行動と云ふものゝ起りは生活すると云ふ事から始まつて居る。生活すると云ふことから必要を感じる。其のネセシテイを感じるに云ふことが人類の最

初の経験であるを見る、さうするとその必要を充たす爲めに人類が努力を致します。その結果が成功することもあれば失敗することもある。言ひ換へればその努力が必要を充たさしむることもあれば充たさしめないこともある、その経験に依りまして次第々々に人類が生活の方法と云ふものを學んで來るのであります。言ひ換へればその必要と云ふことが人類を動かす所の根本的の動機でありまして、努力と云ふことがその人間の力の動いて行きます方向を決定するものであります。即ち努力の結果成功致します時には快感を感じ、不成功の時には苦痛を感じず。此くて斯様な場合には斯様な方法を執ると云ふことが人間の欲求を満足せしめるものであると云ふことを次第に學んで來る。所がそれは個人的の現象でなくて社會的の現象であります。即ち孤立した人間と云ふものは事實に於て一人もない。他人の経験を學んでさうして一定の目的の下には一致の行動を自然と執るやうになつて來る。斯ういふやうな見方で職業と云ふやうなもの、乃至は日常の行動と云ふやうなものが自然に發達して來ますのも

見て行かうとするのであります。

そこでこの職業と云ふやうな方面から人類が如何なる段階を経て進んで參りましたかと云ふことを古來調べました學者が澤山にあるのであります。其中で先づ普通の分類でありまして、比較的適當であらうと思ひますものを挙げますれば、第一は狩獵時代であります。

第二 狩獵時代

狩獵と申しますのは野に行き原に行つて狩をする。水に行きまして漁りをします。即ち魚を獲つたり獸を獲つたりする時代である。斯かる時代を經濟生活或は人間の生活の歴史の第一期と見るのであります。それは舊い記録に據りて調べて見ますのが一ツ、今一ツは現在存在して居ります自然民族の生活を調べて見るのが一ツ、さう云ふ所から段々とハッキリして來たのであります。此の時代の人類の生活状態は今日

の吾々と違ひまして、僅かに二三位の家族のものが一緒になつて、始終魚の居る處、或は鳥獸の居りまする所を求めて轉々として歩いたので、今日のオーストラリアの土人などもその通りの生活を續けて居るのであります。多くは裸體、若くは植物を以て身軀を蔽ふと云ふ有様で事が足りるのであります。さうして獲物があれば總ての者が満足して吞氣に暮して居る。獲物が無くなれば、笑つたり楽しんだりして吞氣にして行くことが出来ない。婦人が出掛けて蜥蜴を取つて来て喰べるとか、有袋類の或動物を取つて来て喰べるとか、大きな獲物は男が出掛ける。大きな事件になりますと男が出て參ります。獅子を獲るとか熊を獲るとか云ふことになる。男が出て来る、一寸した事になると女が出て働く。さういふ状態は矢張り原始的な時代に於ても行はれて居たらしいのである。今でも亞米利加に居りまする土人などを見ましてもさうであります。さうして女と云ふものは朝早く起きて飯を炊いたり、太陽の出る前に起き出で、色々と働くのであります。夕方になりますと山から薪を取つて脊負つて歸つて来る。

男はどちらかと云ふと餘り働かない、併し大きなものを獲る時には出掛けて行つた、こんなやうな事をして居つたのが極く初期の生活であるやうに思はれる、さうすると今日の如き職業問題の如きものが起つて居らない。勿論職業紹介所などの必要もない、物が無くなれば移つて行つて他で獲るのでありますから割合に面倒なしにすんで居るのであります。

さう云ふやうな生活を致して居りまする時代の社會の特徴と云ふものはどう云ふものであるかと云ひますと、貧乏人と云ふものが無かつた様である。随つて貧富の争と云ふものが今日の如くない。何故かといふとこの一ツの部落に屬して居りまする品物と云ふものは、その團體に屬して居る總ての者の所有物である。考へて居る。その部落のものが飢死すると云ふ様な事が起つた場合は別として、然らざる限り如何なるものも雖も飢死してはならない。即ち共存であつて、一人孤立して行くのではないと云ふやうな生活であつたらしい。従つて所有慾、土地を私有せんとすると云ふやうなこと

はない。又奴隷制度と云ふやうなものもない、奴隷制度と云ふやうなものは吾々の歴史には何處にも出て居り、野蠻未開なる太古時代から現はれて居るかのやうに考へられますけれども、初期の生活にはさう云ふものは無かつたらしい。それは人間は凡て同等であること云ふ様な人格觀念が發達したからではない。無論商業と云ふやうなものは發達して居らない。その次に參りまする時代即ち第二期は牧畜時代であります。

第三 牧畜時代

これは必ずしも何處の國でもそれを經たと云ふ譯ではありませぬけれども、多くの民族はその初期に於て此の時代を經たと云ふのであります。牧畜と云ふことはどう云ふことを意味して居るかといふと彼の山にありますもの、河にあるものを直ぐ取つて來て生存を致しまするよりも、その自然と云ふものに對する關係が餘程間接になつて來る、家畜を養ひ、それを勞働に使ひ、又それを喰べるのである。それから人間の者

と云ふものが第一期に比べますと餘程將來を考へて來る様になり、餘程進んで來た。この時期になりまするとまだ土地と云ふことは私有が出來て居りませぬけれども、或る品物、即ち移すことの出來まするやうな品物を、個人が私有すると云ふことが起つて來て居る。私有と云ふことが起ればどうしても貧しい者と富たる者と云ふものゝ區別が起つて來る譯ですから、例へば中央亞細亞に居りまするキルギスと云ふ野蠻人などを見ましても或人間は妻を數人持つて居る。他の或人間は一人しか持つて居らぬと云ふやうに、詰り富みたる者が或種類の品物を澤山持つと云ふやうな區別が出て來て居る。又は人殺しを致しました時には、六百頭の家畜を拂へばそれで許されると云ふやうな考も出て來て居る。これは全く私有と云ふこと思想が起つて來た爲めなのであります。併ながら奴隷と云ふやうなものはまだこの時代にもさう起つて居らない。何故起つて居らないかと云ふと、例へば戰爭を他の民族と致しまして向ふから或人間を連れて來たといふ時に、次の農業時代になりますと、使役して置くと餘程爲になり

ますけれども、牧畜時代ではさう多くの人間を使役して置くこと云ふことは餘り利益にならないので、大概殺してしまふ。さう云ふやうな譯で奴隸と云ふやうな者の起つて來ますのはこの次の時代、即ち農業時代であります。

第四 農業時代

農業時代になると、社會が餘程進んで參ります。即ち一定の土地に定住することになる。さうなつて來ますと色々の方面に新しい特徴が出て參りましたが、先づ第一に一ツの部落の人間の數と云ふものが非常に多くなつて來た。人口の密度と云ふやうなものが非常に多くなつて來た、これは著るしい特徴であります。スザーランドといふ學者がありますが、その人が社會の發達の階段をその社會に幾何の人間を抱擁して居るか言ひ換へれば一ツの社會の中に含まれて居りまする人口の數で以て分類した。即ち極く幼稚なる社會は、四五十人程の社會であつたのが、百人、五百人、千人と進

んで行つて、數千萬人或はそれ以上をも一ツの社會の中に含み得る様になつた。此くて農業時代になりますと前の二期に比べて、一社會の人間の數が非常に多くなつてくる、従つて密度と云ふものが非常に殖えて來るのであります。これは獨逸で調べましたものであります。第一の狩獵時代、例へばブツシユマンとか、バタゴニヤ人濠太利の土人等の社會では一基米平方に就て千分の一人居るか居らぬかである。その次の今少し進みました時代、例へば印度の土人、ニグロの或る部分といふ様な者の社會では十分の七人にも足らない。それから牧畜を致して居りまするやうな時代になります。一人か二人、それから少し商業とか工業の幼稚なやうなものが始まつて來たと云ふ様な者、即ち亞弗利加人であるとか或は馬來人種の間では二人から五人位となつて居ります。而して農業時代と立派に稱することの出来る所、言ひ換へれば南歐羅巴の或る區域のやうな所になると七十人位と算へて居る。それから更に進みますと中央歐羅巴などで見ますやうな農業の外に、工業が起つて來る時代にて、七十人から百六人

位となつてあります。その次には支那とか瓜哇とか入れてありますが、其の少し進んだ所になりますと百七十七人位となつて居ります。次には商業が餘程進んで參ります時代、例へば中央歐羅巴などは二百六十六人位となつて居ります。勿論斯様な數字と云ふものはホンの概算であります、時代が進むに従つてその社會の人口の密度が段々殖えて來ると云ふ事は大体に於て云ふことが出来る。

なほこの時代に就て述ぶ可き者に奴隸制度と云ふものがあります。奴隸制度と云ふのは、この時代からであります。即ち奴隸と云ふものが社會の組織に重要なものになつて來た。後の羅馬人、或は希臘人、埃及人の如きはその例であります。それから土地の所有、土地と云ふものを個人が私有すると云ふ者が段々この間に發達して來て居る。今日の如き私有財産、殊に土地私有財産の思想と云ふものはこの時代に起つた様であるけれども農業時代でありますから商業と云ふやうなものは出て居るとしても非常に幼稚なものである。商人と云ふやうな階級は發達して居らない。」一ツの村が一ツ

の社會であつて、この社會と他の社會との間の交際と云ふやうなものは發達して居らない。自分自分の團體だけの生活である。即ち村に必要なものを作り出す。殊に其の必要とするものは、非常に簡單で、今日の如き多種複雑なる而して高尚なるものを必要としない。單に衣食に事缺かねばそれで宜しい。英吉利のノルマンコンケストに征服せられた時代などが、此の如き時代であつた。次には商工業の時代が起つて來た。

第五 商工業時代

この時代にて著しき事は、ギルトが發達して來た事である。ギルトは特權的の商工業團體である。大工は大工、左官は左官、鍛冶屋は鍛冶屋と云ふやうに、それ／＼團體を造る。さういふギルトと云ふものが起つて來た。職人と云ふ者は此の時代に起つて來たのであります。此の職人と云ふものは今日の勞働者とは違ふ。自分自身の爲め

に働くのである。さうして如何に貧しくても生産の道具は持つて居る。ギルトと云ふ職人団体に加入し得る人間は凡そ決まつて居ります。それ等の住んで居ります場所も決まつて居る。斯う云ふやうな形は歐羅巴では中世にありました。日本でも鞍造りは鞍造り、烏帽子造りは烏帽子造りといふ風にそれ〴〵稼業が違つて居つた。第十七世紀の頃の英吉利などには此かるギルトと云ふものが起つて居つた。これは今日の新しい産業社會と云ふものゝ起つて來ます前の時代ですが、我が國にも之に似たやうな時代がありました。例へば一ツの職業に入るには、丁稚奉公を致します。何年かの年期をつとめる。親方と云ふものを決めて、修業したのであります。佛蘭西などで發達致したのは、一ツのギルトといふ大きな職業別の團體を造つて居つてそのギルトの仲間へ入りました者は相當の修行をする。諸國旅修行をして歩いたものであります。旅修行をして行くに、其處に居りまするギルトの仲間が面倒を見て呉れる。食物を喰べさせてやり、病氣になれば親切に世話して呉れる。而して更に旅を續けると云ふ場

合には、その村端れまで見送つて、多少の路銀位は作つてやつたものである。それからその仲間へ入りますには餘程嚴重な規則があつて、結婚した者は入れない。親方になつた者は入れない。さうして熟練したる技術を持つて居り、相當堅實なる職人であれば入れなかつた者である。

次に此の時代の特徴として擧ぐ可き事は、今までは物々交換の時代であつたのが、この時になりましたは貨幣の媒介によつて賣買をするに云ふことが著しくなつて來た事であります。

第六 産業時代

次に起つて參りますのが、吾々に一番關係の深い今日の時代であります。インダストリヤル、ステイジと申しますが、産業が非常に起つて來ました時代であります。十八世紀の末に英吉利で蒸氣力を動力として使ふ事になりましたのを初めと致しまして

産業の方法が全然變つて來た。今までは手で以て紡績車を動かして居つたのが、今度は動力を使つて紡績をするやうになつて來た。機械に就ても鍛冶屋に就ても、總てその方法が變つて來た爲めに、産業生活が殆ど革命的に變つてしまつた。これを英吉利では産業革命と申します。その結果として、工場制度と云ふものが起つた。さうして非常に大規模な高價機械が用ひられるやうになつて來た。そこで産業を經營して居るところの者と、その下に働いて居るところの者とが截然と別れてしまふことになつて來た。從來大工は大工の道具を持つて居り、鍛冶屋は鍛冶屋の道具を持つて居つた。而して自分の家で仕事をして居つた。ギルトの起つて來ましたやうな時でもそれは親方の家へ行つて仕事をした。而も仕事は多くの場合に於て自分の仕事でありましたから生産物も亦自分のものでありました。勿論小規模なる生産の方法でありますから巨大なる富を積むと云ふやうなことは難かしい。併し今日の如く失業に對する不安、生存に對する脅威を常に感じて居ると云ふ様な事は無かつた。然るに第十八世紀に、

産業革命が起りましたからと云ふものは、無数の民が相率ゐて、家庭を去つて大工場に走つた。そして不健全なる共同長屋と云ふやうなものに住ふやうになつてしまつた生産の道具は千圓や二千圓の金では買へない。最初から非常に大規模であり、高價であつたが、それが益々大規模に、また高價になつて來た。此くて労働者が全く生産の道具から離別されることになつた。而も仕事は人の仕事であつて、自分の仕事ではない。造り出したものは自分の者では無い。又昔の徒弟でありますれば、親方との間は非常に溫情が通つて居り、出來る限り離れまいとした。今日の傭主は使つて居る人々の顔さへも知らない。彼等の目的は營利である、事業の繁榮である。利益を多くしたいと云ふこと、自分が一ツ事業を盛んにやつて見たいと云ふのが主眼です。

そこで先づ英吉利に於て婦人や幼い子供と云ふものが夜業をするとか、鑛山に低廉な賃銀で雇はれて穴の中で働くこと云ふやうな新しい弊害が社會に現はれた、詰りそれは出來得る限り廉い賃銀で出來得る限り高い品物を澤山に出して、産業上の競争に勝

たうと云ふやうな事になつて來た結果であつた。

なほこの時代の特徴を申して見ますといふと、この前の時代には一ツの職業團體に入つて居ります人間と云ふものは人員が凡そ決まつて居つた。無暗に殖えはしない。他の者はその中に入れぬ、従つて保護されて居る譯でありましたが、斯う云ふやうな事は今申しますやうな時代になつて參りますと、時代錯誤で、特權的の職業團體と云ふものがあつて、それがすべて職業を獨占して居る。他の者が入れぬと云ふことは許されない。そこで佛蘭西では千七百九十一年の三月の法律で——それは丁度革命の後であります——ギルト即ち同業的特權團體と云ふものは廢してしまつて、總べての者の労働の自由と云ふ事にした。誰でも好きな仕事をして宜しい。好きな職業を擇んで宜しい。斯う云ふやうな事になつてしまつた。これは各人が己の好む所に従つて進む様にするといふ主義でありまして、個人の自由といふものを妨げないといふ原理が社會を支配するといふ事になつて來たといふ事を意味するのであります。

Laissez faire「自由になさせて置く」といふ原理で凡ての物が見られる様になつたのである。束縛しない、干渉しないと云ふのでありますから競争は勝手である。そこで盛んに自由競争をしたものである。

さうすると今度はその反動時代が來る。即ち勝手に競争させました所が、己れの營利と云ふ事から何でもやりますから勝手なことを致します。そこでその結果先づ英吉利などに先刻申しましたやうな色々の弊害が起つて來た。此に於て之に對して或程度まで制限を加へなければならぬと云ふやうな思想が起つて參りまして、工場法をはじめとして労働者保護の爲の制限が現れて來たのであります。

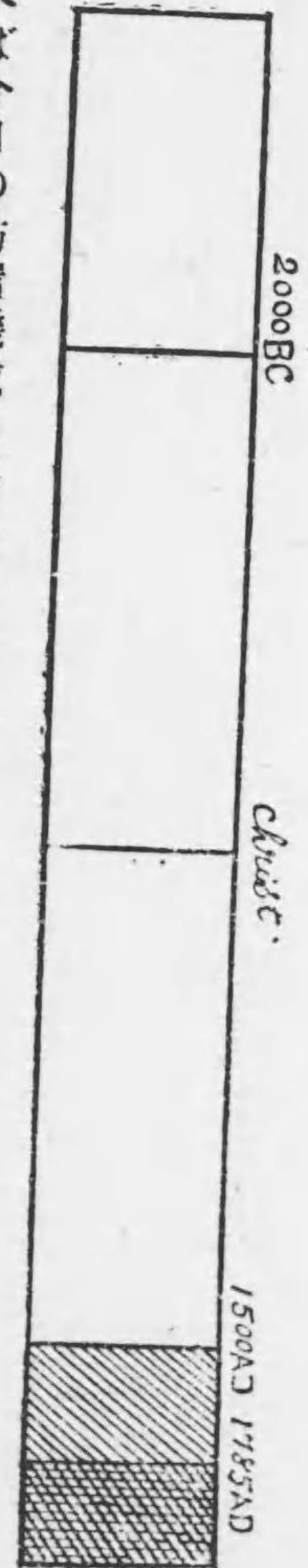
第七 職業の複雑化

そこで今度は、以上の時代の推移に伴ひ、職業に就ての特徴の上に、ごんな風な變化が現れたかと云ふ事を眺めて見たい。そこには著しい變化が起つて來て居る。それ

は第一に社會に職業と云ふものが多くなつたことである。今日の職業と云ふものは著しく多い。昔は狩をし漁りをして生活して居つた様な時代には、個人の間になさう職業上の區別はない。皆同じやうな事をして居つた。農業時代に至つても、職業と云ふも人の爲めに或品物を造ると云ふやうな者は出て居らない。所が今日の如き産業革命以後の時代になると、昔無かりし職業が著しく殖えて來た。それを例を申上げて見ますと千七百八十九年に、亞米利加のボストン府で當時の職業調をした事がある。それに據ると、その當時でも二百職業が擧げてある。所が今日は一萬以上もありますと云ふ譯で、非常に職業の數と云ふものが多くなつて來た、何故多くなつたかと云ふと、昔一人で致した仕事を、今日では細かに分けて、無數の人ですることになつた。そして例へば一生靴の尖の革を作る者が出來たと云ふ様な事になり、それが一の職業になつて來た。昔は靴などは何も彼も大概一人の人で拵へた者である、のみならず醫者も百姓も牧師も皆一人でやつて居ると云ふ様な事が少くなかつた。英吉利などでも、百姓を

しながら大工もすると云ふ有様であつた。ボストンなどの例を見ますと、學校の先生は大概醫者をやつて居つた。又英吉利では理髮師が同時に醫者であると云ふ様な事があつた。だから一人で二ツも三ツも兼ねて居る。所が今日では靴を造ることの二ツでも澤山の者がやるやうになつて來た。一ツの靴を造るのに昔は一人で濟んだものが百十三の者がそれ／＼違つた仕事をやつて居ると云ふやうになつて來た。夫だけではない。全然昔無かつた仕事が今日澤山出て居る。それはもう限りなく擧げることが出来る。例へば郵便脚夫と云ふやうな者も昔は無かつた。速記者、タイピストもありはしなかつた。廣告を書く専門家と云ふ様なものも無かつた。それからボストンで、千七百八十九年に調べた者に名が擧がつて居らない職業の中で、今日盛んに行はれて居るものを數へて見ると、生命保険勸誘員であるとか、アイスクリームを拵へる人、職業的勘定方、自轉車屋、葬儀屋、エレベーターボーイ、シヨールウヰンドーガール、石炭運搬者、殊に電氣蒸氣に關係して居る者等實に澤山ある。所がそんな職業と云ふもの

は今日では餘りに普通である所から動もすれば、昔から相當に發達して居つた者であるかの如くに考へられますけれども、能く調べて見ますと極めて最近の發達にかゝる者である。時代から申しますと、非常に長い間、極めて少い職業で濟んで來ましたものが、産業革命が十八世紀の末起つてから、急激に澤山な職業が現れて來たのである。



例へば今日の紡績機械は蒸氣力を動力として動いて居る。所で此の機械の使はれる様になつたのは産業革命以後である。之を歴史に就て考へるに、此今日のやうな蒸氣力を使ひます紡績機械は、千七百八十五年からありますから今日ある紡績機械と云ふものを本とした職業が起つて來たのは極めて新しい事實である。その前は車でつむ

ぐのであつた。それも餘程長い間行はれた者かと斯う云ふ風に考へられますが、實は一五〇〇年頃からの事である。その前は車も何もない手である、それでありましたから今日のやうな職業は餘程前から現れて居るかの様に考へられるけれども、調べて見ますと、極めて新しい時代からの者である。殊に多くは十八世紀の末からのものであります。而して職業がこの通り複雑になつたと云ふ事程、世界の變化の中に著しいものはない。是程革命的な急激な大變化は無い。

職業の分化の上に著しき變化が現れた上に、其の生産力に就ても大なる變化が起つた。千八百五十二年、即ちそれは十九世紀の半でありますから、時代から云へば餘程新しいのでありますが、この時代に於ても新聞の四十八萬頁を刷るのに三千六百六十時間掛つたと云ふ、然るに千八百九十六年になりますと僅に十八時間三十秒で宜いと云ふ事になつて來たと云ふ。著しい變化であります。

又銀行などに就て見ても現今では我國にても何處にでも銀行はありますから、百年

前でも亞米利加などには可なり多くの銀行があつたらうと思はれますが、百年前には大きな銀行と云ふものは二ツしかなかつた。さうすると銀行を中心とする職業もつひ此頃出来たものである。若し今日銀行が破産でも致しますれば、アメリカの國民の四分の三と云ふものはその打撃を受ける。今日では銀行に關係のない人は殆ど無いと云ふ位である。此の如く職業の上に大なる變化が起りました事に伴つて色々新しい社會の問題が起つて参りました。

先づ第一は何處の國でも農業と云ふやうなものに従つて居ります者の割合が減つて参りました事である。例へばアメリカに就て見ますると、同國政府の統計に據れば千八百八十年には農業に従つて居る者は國民の四四・三パーセントであつたのが千九百年には三五・七パーセントになつて居る。而して自由職業者の方を見ると三・五であつたのが、千九百年には四・三になつた。斯う云ふやうな者が殖えて來た。それから工業に従つて居ります者に就ては、二一、八であつたのが二四、四になつて居る。

それから商賣の方、或は運輸と云ふやうな職業、さう云ふ方面に關係して居た者が一〇、七であつたのが一六、四になつて居る。それから家庭に於て個人の世話を致しますとか、下女として働くとか云ふやうな者、さう云ふやうな者は一九、七であつたのが一九、二になつて居ります。

そこでさう云ふ風に職業と云ふもの、色彩が非常に變つて來たと云ふことが、今日の社會にどう云ふ意味を與へて居るのかと申しますと、人間と云ふものが機械に使はれるやうになつたと云ふ傾きが一ツ出て居る。言ひ換へれば機械の奴隸であること云ふやうな職業に従つて居る人間が著しく殖えたこと云ふことが、近代社會生活の一大特徴として現れて來た。これは決して牧畜時代であるとか農業時代と云ふやうな時代にはなかつたものである。

それから第二の問題は、婦人が家庭以外の職業に著しく入り込んで來たと云ふ事である。これは産業革命以來、次第に著しく現はれて來た傾向でありましたが、それが

殊に今度の大戰以來從來婦人の職業とせられなかつた種々なる方面に、新しき活動の分野を見出して來た。大戰前の歐米の家庭以外に働いて居ります婦人を現はすのにピラミットを以てする事が出来る。非常に底廣で高さのズングリしたピラミットをなして居る。基底は頭數に於て一番多い職業に従つて居る婦人を現はして居る。即ち裁縫して居る者、造花をして居る者、ボール箱の如き箱類を造る者、と云ふが如く、今までは家内工業、即ち工場制度の發達しない前に家の中で致した仕事に従へる婦人である。それから一步進んで罐詰を造るとか、パンを焼くとか、洗濯をするとか云ふやうな者、これは半家内工業と云ふ可き者に従つて居る婦人がある。

此等多數の婦人に對しては、保護的な法律もなほ發達して居らない。産業的法律規則と云ふものは、労働者の健康の事などを考へて、斯ういふ仕事には妊娠せる婦人を使つてはならぬとか、また夜業には使つてはならぬとか云ふ様な類の事を定めて居る者であるが以上の多數の婦人は、此等の規則に制限されて居ない職業に従つて居る者

でありますから、長い時間不衛生な所で、非常に骨の折れる仕事をして、さうして賃銀は廉い、斯ういふやうな氣の毒な状態にあるのである。更にその上の層は機械の見張りをする、或はショップガール即ち、商店の賣子である。是も賃銀を調べて見ると廉い。その次のものはタイピストであるとか、速記者であるとか、セクレタリーとか、事務員と云ふやうな者になつて來る。その上のものは産業のもつと重要な部分を占めるが非常に少數である。然るに大戰以來、此の形の上に變化があつた。先づ英吉利に就て見ますと、戦争が始まつた千九百十四年と同十八年とを比べて見ると、工業に従つて居ります労働婦人と云ふ者が凡そ二百十七萬から二百七十萬に殖えて居る。その他ショップガール、事務員などを併せますと四十四パーセント殖えた。この意味は、今まで全く男子の手に依つて行はれて居た仕事の中へ、婦人が段々に入り込んで來たと云ふ事である。それで銀行の事務員であるとか、電車の車掌であるとか、自働車の運轉手であるとか、スフィッチの番人であるとか、巡查などにも婦人が入

り込んで来た。

戦争中には軍事的必要から男子の多数が戦場へ送られた。そこで婦人が男子の従事せる職業の中に入り込んだのでありました。然るに、男子が戦場から歸つて来た。而して男子の失業者が段々出て来た。云ふ時に、男子と女子との間に職業問題が起るやうな事になつて来ました。婦人を逐出すとしました所でさう無暗に出す事は出来ませぬから、前から比べますと女子と云ふものゝ活動範囲が餘程戦争以來擴まつて居る。従来婦人は家庭の範囲内だけを活動の天地と限られて居つたものであるが、此くして家庭以外の職業に非常な勢で入り込んだと云ふことは經濟的の壓迫からでもあるが、一ツには所謂婦人のアグレシヴ、アイデアリズム即ち進取的理想主義、換言すれば、婦人が自由を求める、さうして彼等の地位を人間として一層高めたいと云ふ理想主義の一ツの現はれと見る事が出来る。婦人の自由は叫ばれても、今までの如く經濟的に獨立せざる限りは、何時まで経つても眞の自由は望まれないから、先づ第一に

經濟的に獨立しやう、それには職業を持たうと云ふ考になつた。

それから第三の問題として、さういふ風に職業が非常に變つて參りました所から、同じ職業の者が殆ど同じ場所で働くこと云ふやうな事になつて来た。同じ工場で働くこと云ふやうな事になつた所から、結束或はソリダリティ即ち聯帶の意識が發達した。而して彼等が結束して彼等の意見を主張し、要求を貫徹せんとする運動が著しく發達した。此の運動は更に開展して、職業の區別と云ふことに餘り重きを置かない。同じやうな性質の人間階級、即ち勞働をして賃銀を得て暮して居る凡ての者が、如何なる職業の者でも結束して進むと云ふ傾向が非常に發達して来た、これが近代社會の一ツの特徴である。

此くして職業婦人問題、一般勞働問題等嘗て十八世紀の終り頃まで無かつたやうな諸問題、續出して来た。そこで之をさういふ風に切抜けて行くかと云ふやうな點に大なる問題を有つて居る。而して各種の職業に入り込む者を如何に指導してやる可き

か、或は職業を有せざる者又は失へる者に、之を如何にして與ふ可きかと云ふ様な實際問題に就て近代社會は何れも苦しんで居る。

東京市中央職業紹介所長 安田 龜一 述

第五編 我が國の女子職業に就て

第一 女子職業の意義

私は職業紹介の實務に當つてゐる者であります、今日は成るべく理論を避けて實際に就て申上げるつもりでございますが、然し必要とする範圍に於て、理論に亘ることがあらうと思ひますので、其點は豫め御含みを願ひたいと存じます。女子の職業と申しましても、其範圍は極めて廣いのであつて、其意義も必ずしも明瞭でないのです。まず、女子の職業といふことに就て申上ぐるに先立ちまして、先づ職業とは何ぞやといふことに就て私の考を申述べて見たいと思ひます。

凡そ人間は日常の生活に於て、自己若くは他人の勞作になる所の物資を使用しない譯には參らない。極く稀な場合は別と致しまして、普通には事毎に他人の勞作の加はつた物資を使用致してゐるのであります。文明が進めば進む程、分業が発達すればする程、物資は必ず多數人の勞作が一になつて結合してゐるものである、其結合した結果を利用する場合に於て、其人は常に社會に負ふ所が極めて多いと云はねばなりません、分業の世の中に於きましては、自己が或業務に勞作することは實は他人の爲に勞作するのに外ならない、尤も勞作に依て得る所の報酬は、之は自己の收入として直接に生活資料に相成るのでありますけれど、勞作其ものは全く他人の爲——即ち社會の爲に相成るのであります。併し社會の人の爲にする所の勞作はまた應て是れ自己の爲に圖ることになるのでありますから、結局此の世の中は各職業を通じて相裨益し相扶助して行くのであつて、其所に生活の妙味は存するものと思はれます、故に職業といふことは單に形式（經濟的意義）から云へば、報酬を得る目的を以て繼續して或業

務に就くことであるけれど、其眞目的（社會的意義）から云へば、これは社會活動に於ける各人の分擔であること云へます、各人は此形式を透して社會に貢献すると同時に、自己の生活を價值あらしめ、進んでは職業を行ふ中に道德や、藝術や、宗教を見出すべきものではないかと思ふのであります、これが職業が單に衣食の爲の方便でない理由であつて、職業選擇の實に重要な所以であります、職業の選擇は勿論自己の天分に適したるものを選ぶべきであつて、職業が其人にとつて適當を得ると得ないとは、之を小にしては一身一家の浮沈禍福に關し、之を大にしては前に述べた理由に基いて社會の禍福産業の消長にも關係して來るのであります、さて職業はかく社會活動に於ける分擔であること致しまして、女子の職業とは如何なることか、女子と雖も社會の一員である以上、社會活動に參與すべきものであることは勿論である、たゞ女子には男子に異つた重い任務を持つてゐます、それは何であるかといふと云ふまでもなく分娩と育兒であります、而して分娩育兒は多く家庭に於て行はれるものであるが故

に、女子が家庭を外にして職業に就くことが出来るか何うか、またそれが適當であるか何うかといふ問題が起つて来る、それから又、人は眞に適當の職業を得ない場合と雖も食はずに居ることが出来ません、それであるから心ならずも眞個適當ならざる職業に就く場合も多くあるのであります、殊に婦人に至つては家計の都合や一身の必要から、所謂職業婦人として、世間に踏出す場合が近來機會が多くなつて參りました。何故かく婦人の職業に就く者が増加するに至つたか、後より申上ぐることに致しまして、其婦人の就いてゐる職業状態即ち婦人と仕事との關係に於て、前中上げた家庭といふ關係に制肘されて、婦人は自ら男子とは異なる状態にあるものが多い點があるもので、これが婦人に内職者の多い所以であります、必ずしも婦人に限りませんが人の執つてゐる業務状態は、主として収入の關係に於て本業と副業と他人の業務に従屬する業務との三つに大別することが出来ます、或る業務を本業として持つ場合がある、又或る業務を副業として、つまり自己の本業の補助として持つ場合がある、更に本業を

持つものに從屬する（獨立でなく）意味に於て従事する場合があります、茲に所謂女子職業と申す範圍は、本業として持つ場合を申上げるのであると大體御考を願ひたいのであります、勿論或る場合には其業務の性質が副業として持ち得るものもありません、又本業と副業との區別も實際とすると、容易に見定め付かぬものもあります、本講演の内容となる婦人職業は、大體に於て本業としての意味に於て申上げるつもりであります。

第二 女子職業増加の原因

近來女子の職業が増加して來たことは著しい事柄であります、歐米諸國を見ましても女子の職業の増加は著しいのであります、亞米利加では千九百十年に、職業を有する婦人が約八百萬人と言はれて居りました、所が昨年千九百二十一年に發行した書物によりますと一千二百萬人に増加して居ります、尙其他の國に於きましても非常に増

加して居ります、英吉利の如きも戦前と戦後とは非常な相違でありまして、唯今其確な數字は此に持合せはありませぬが、兎に角非常に殖えて居るのは事實であります、歐洲に於ては御承知の通り過般の大戦の結果、壯丁は皆戦場に出た爲に、家庭に残つて居る女子は厭でも應でも外へ出て壯丁の代りに、國家の爲に仕事を負擔しなければならぬことになりましたので、女子が戸外に出て働くことの勢を一層強めた傾があります、亞米利加で千九百年に行つた國勢調査を見ますと、職業の種類を三百三種に分けてありますが、其中に女子の全く參與しない職業は僅か八種だけに過ぎない、それは陸海軍の軍人とか、消防夫の親方とか、(消防夫でも親方でない方には女子も從事して居りますが)さう云つた様な八種の職業だけが女子が從事して居なかつた、其他は機械工のやうなものにも女子が大分ある、女子の機械工の如きは五百八人もあつた、鐵工にも百八十五人、機關運轉手、火夫のやうなものも四十五人もあつた、井戸堀人夫が十一人、と云ふ風に、あらゆる職業に女子が喰込んで居る、是まで男子の持つて

居つた職業を侵蝕し、而して男子がやつて居つた通りに見事にやつてのけるやうになつて居るのであります。

翻て我國の状況を見ますと、泰西諸國の影響を享けて婦人職業が著しく増加してゐるのであります、以前の數字は幾何であつて、今日の數字は幾何であること云ふ様な數字的比較の状況は、判然し難いのであります、近年になつて急速の増加をなしてゐることだけは事實である。而して後にも此ことは中上げますが、歐米諸國に於ける如く我國でも職業婦人は先づ下層階級から初まつて、それからだん／＼中層、漸次上層といふ風に、下より上に上つた事實があるのであります、これは矢張り其原因は生計上の理由が主になつてゐるので、近代的産業制度に歸座する所非常に多いのであります、唯今日本の職業婦人の總數は約四百萬人と稱せられてゐますが、其中で最も多いのは云ふ迄もなく農業婦人であり、これは併し、何も近頃始まつたことではなく、日本では昔から多數存在してゐたのである、唯新なる現象といふのは農業婦人に

次で多い所の工業婦人即ち女職工であります、刻下世間で喧しい女子労働問題の中心とせらるゝものは此處にあるのであります、それから中層以上の女子も漸次思想上や經濟上の理由から職業の野に志すものが多くなつて、中層以上の婦人の職業分野も今日では可なり複雑してゐるのであります。唯彼等の奉ずる所が下層婦人と違ふ所は、單に収入を目標とする外に、社會に或活動を爲さうとする努力を加味することであります。

斯う云ふ風に女子にして職業に従事する者が増加して來ると同時に、其所に持上つて來たものは婦人の職業問題であります、婦人問題としては、政治の問題、教育の問題、職業の問題、家庭改造の問題等種々ありますが、殊に婦人職業問題は最も興味ある問題で、又重大な問題であると思ふのであります、勿論婦人の職業に就ての議論は、古い頃からあつたのでありますが、今日のやうに婦人職業問題の喧しくなつたのは、あまり遠くない頃からのことでありまして、大體二つの原因があると思ふのであ

ります、一は思想的原因でありまして、他は經濟的原因であります、思想的原因は、かの鬼才ルソーの自由平等思想が遠因をなしてゐると思ふ。尤もルソー其人は女權論者でなく、却て女子を貶する側の人であります、其自由思想が一般に波及して佛蘭西革命まで起しました位で、婦人運動にも一抹の炬火を點し、強烈に而して急激に婦人の自覺を促すことゝなつたのであります。女子も人である。男子と同じく人である。從來男子に壓迫され拘束された生活から解放されなければならぬ。女子の解放は何よりも大切なことであると云ふ考から一轉して、女性も男性と共に社會に出て活動しなければならぬ。それにはどうしても原動力たるべき財力の自由を得なければならぬ。經濟的獨立を得なければ面白くないと云ふ考が盛になつた、かくして婦人の職業的活動といふことが漸次眼覺めて來たのであります。

經濟的原因としては、十八世紀末に起りました例の産業革命、この産業革命は我々の社會に種々なる問題を投げ與へましたが、婦人職業問題も其一つであります。蒸氣

機關が發明され、動力機械が發明されて、精巧なる機械の出現となり、從來の家内工業は段々足並が崩れて、資本を有する者のみ獨り營み得る所の大工場組織、即ち現代の如き産業組織が其所に立てられた。即ち産業革命に依つて資本本位の生産が行はれるやうになつたのであります。この近代的産業方法は一面に於ては資本萬能の世の勢を醸出し、他の一面に於ては從來の家内の自定的の經濟を餘蘊なく崩壊し去つた。而して前者よりは貧富の問題を起し、後者よりは男女の問題を生じたのであると思ひます。

例へば大規模の生産をするには何うしても大なる資本が要る、大資本を有する者は少數の者である。其少數の大資本を有する者が資本を投じて、非常に生産を盛にする。而して今までは注文に依つて製作してゐたものを世の需要高を見越して生産するやうなことをやる。その結果資本の少いものは大資本を有する者には迎も適はないから、忽ち壓倒されて、自分の製品を段々市場から驅逐されるやうになつて、さうして

段々貧乏になつて、お終には資本を有する者に使はれなければならぬことになつた。茲に於て貧富の差は非常に甚しくなつたのであります。是が種々の社會問題乃至勞働問題を生ずる一の原因になつて居るのであります。次に又以前は自分の入用なものなるべく自分で拵へると云ふ風であつたが、大工場組織が出来ましてからは、割合に安く、さうして良い物が工場で造られるやうになりましたので、自分の使ふ物も自分で製造することが馬鹿々々しくて出来ないやうになつた、今までは例へば斯う云ふ柄の反物が欲しいと言へば、其縞柄を機織屋へ注文したものであるが、機屋が段々大規模になつて來ると所謂見越生産をやつて、澤山の物を一遍に拵へるから、製品は非常に安く賣れる、さうなると各自に拵へるのはつまらぬと云ふので、自足經濟は崩壊するに至つた、そのみならず、今までは自分で井戸を堀つて、其水を汲んで使つて居つたが、水道が出来て、螺旋をねぢれば水が出るやうになつた、又今まではランプを使つて居つたのが電燈が出来て、螺旋をねぢれば燈火がつくと云ふ便利な世の中に

なつた、ランプを點すには色々手数がかゝる、假りにランプ掃除の時間を、一戸に就て五分間としても、東京位の都市になれば五十萬戸もあるから、五五二百五十萬分即ち約四萬二十時間の人手が省けることになる。之を一日八時間労働として人数を出して見ると五千二百人になる。ランプ掃除は大抵女子がやつてゐたのであるから、電燈が出来たことのみで就てもそれだけ家庭に於ける女子の手が空いた譯であります、此の如く家庭に於ける女子の手が空いて來たのに加へて、非常な物價の騰貴で生活の壓迫を來した、一方外部に於きましては、工場では大規模に分業が行はれて、仕事が簡單に出来るやうになつた、其簡単な仕事をやるには、女子の如く賃銀の安い者を雇ふことは非常に利益である、又老人子供でも出来るやうな簡易な分業が出来たのでありますから、勿論女子に適する職業は段々殖えて來た、一方内に於ては女子の手が空いて來ましたので、どうしても女子の手が外に出やうとする、加之、生活の壓迫が加はる、今まではラムプでやつたけれども、それが電燈になると相當に費用を増して來

る、水道が出来れば水道料も拂はなければならぬ、さうなると生計を補助すべく女子の手が戶外に延びざるを得ない、外から引張る所へ持つて來て後から押出すと云ふことになつたから、勢ひ職業婦人が増加して來たのであります、さう云ふ形勢に加へて歐洲に於ては大戦が勃發致しましたので、どうしても女子の働を俟たなければならぬ、壯丁が戦場で働く間、其壯丁のやつて居つた業務に對しては、どうしても婦人がやつて當らなければならぬ、茲に於て女子は一齋に其方面に向つた、一齋に男子のやつて居つた職業に就くことになつた、茲に於て端なくも又問題が起つたのであります。

第三 女子職業に關する諸問題

斯の如く戦争と云ふ機會に於て、婦人の獲得した地位は再び元の如く男子に返すかどうかと云ふ問題が起つたのであります、今まで何とかして經濟的の獨立を得る機會

を得たいと思つて居つた矢先、戦争の爲に一齋に婦人の獲得した地位を、戦争が終つたからとて男子に易々と渡すべきかどうかと云ふ問題である、さうなると男子も婦人との間に於ける職業の争奪になる、一體婦人は家庭に於て家庭の仕事をするのが本務である、其婦人が職業生活に入つて、徹底的に経済的の獨立を圖らうと云ふことが、果して正しいかどうか、又能力上可能であるかどうかと云ふ問題もあるのであります、所が一旦婦人の獲得した職業上の地位を男子に返すことは斷じてあるまいと云ふ一部分の人々の説は、戦争が済んで男子が復員することに依つて大分裏切られたやうであります、殊に最近歐米諸國を漫遊して來た名士の話を聽きますと、從來男子のやつて居つた勞働は、今又男子が占めて居る、電車の車掌なども女子は少いと云ふことあります、尤も一方に於て男子の失業問題がやかましいので、婦人が之に譲つたと云ふこともあるのでありませう、獨逸などでは婦人が就職するに當つて、平和になるまで、男子が復員する迄と云ふ條件の下に、男子のやつて居る仕事に當らせたと云ふと

もあつたさうであります。要するに婦人が経済的獨立を考へて、根本的に男子と對等に世の中に相對して行かうと云ふ考は、甲論乙駁、色々の説があるのでありますけれども、私共は絶對的に男子と對等の経済的獨立と云ふことは婦人には出來ぬことではないかと思ひます。婦人は何と云つても一大任務を持つて居る、女性特有の任務がある。分娩、哺育等母としての任務がある。これは何うしても婦人以外の者に譲ることは出來ぬ。母性保護の重要なことに就ては、有名な瑞典の女流論客エレン、ケイ女史も痛論して「若し新社會が女子をして靈魂の教育者たる母たらしめずして、男子と同じく戸外に於ける勞働に従事させたならば、それは大なる精力の誤用である、」と叫んで居ります。實際職業の野が女子の生理的關係、身體的關係に於て、男子の此點に於ける自由無碍なる活動に及ばざること、如何に最負目に見ても等差なしとは無論申し難いのであります。ギルマン夫人などは婦人は世の中の生物の中で、男性に據つて其生活資料を得て居る、これは單り人類ばかりである、こんな現象はおかしい、と

うしても婦人は經濟的の基礎を得て獨立しなければならぬ、それには婦人は男子と辯を並べて競争の野に馳せ參ることが正當であると云つて居りますが、婦人も社會に出て活動することは決して悪いことではないが、併し職業生活を徹底せしめると云ふことになる。母性の保護と云ふことに缺陷が生ずることは止むを得まい。女子の經濟的獨立の爲に「子供を養ふ爲に公共の育兒院を設け、病人不具廢疾者の爲に公立の病院養老院を建て、これ迄家庭の中で婦人が受持つて居つたことは、全部社會に譲つて了つて、而して婦人は男子と共に社會の仕事に従事することに依つて眞の獨立が出来る」との考は獨立といふ文字の耀かさに憧るゝこと餘りに急であつて、婦人本來の賦性を忘れたものであると云はねばならぬ。併しながら職業婦人の總てが既婚婦人には限らない、未婚者もあれば未亡人もある。或は一生獨身で暮す者もあるのでありますから、婦人の經濟的獨立と云ふことが如何なる場合にも不可能であるとは斷ずる譯には參りませぬが、婦人本來の使命から云つて、大體論として私は消極に解せざるを得ない者であります。

要するに婦人職業問題の歸着する所は、婦人の本性を省みることが最も穩當の説である。と存じますが、例婦の場合も多いことを記憶せねばなりません、殊に 人が職業に就くことが善いとか、悪いとか云ふよりも、是は今日の社會事情に基く大勢である。落付く所まで落付けば必ず行詰ること、思はれます。之を悪いからどうしよう、斯うしようと言つてもそれは不可能で、婦人が職業の方面に入つて來て、段々國家に貢獻すると云ふのは確に悪いことではないと思ひます。唯根底に於て、母たること、妻たること、家庭と云ふものを、全然打壊さない範圍に於ての活動は結構である。決して之を貶すべきものではないと思ひます。

第四 我國女子の職業分野と其實情

我國女子職業の分野及其實情に就て申し上げます。それに先立つて御斷りを致さなけ

ればならぬのは、我が國には女子職業に就ての細かい調べがまだ殆どないのであります、私は此講演を依頼されました時に、斯う云ふ席に於てお話するのであるから、何とかして吾々が是なら正確であると思ひ得る十分な調べが欲しいと思ひまして、各方面に手を廻して調べたのであります、遺憾ながら諸官公衙、又其他の方面に於きましても、部分々々のことは大體のことは分つて居りますが、綜合した調べはないのであります、さて我國現在の職業婦人の數は前申上げました通り、大體四百萬と謂はれて居りますが、然し其四百萬と云ふのも約四分の一は推測があるのらありまして、私共先頃から方々へ手を廻して調べた結果は約三百五十萬人ばかりの調が出来ました、然し其調べの中に多少の推測は混つてをります、それは逓信省或は鐵道省の仕事に従事して居る者はかなりの確に調べが出来て居りますが、商業に従事して居る者などは、一般の商店などの状況を悉く調べることは不可能な事情があるので、此數は正確に分つて居らぬのであります、其他正確に分つて居らない民間の仕事があります、

兎に角三百五十八萬一千人といふ數を私共は調査に依つて知りました。それ等の職業を業態の上から區別して分類して見ると大體智識的業務と筋肉的業務との二つに別けることが出来ると思ふのであります、智識的業務の中には更に事務的業務と、技術的業務との別が出来ますが、事務的業務と云ふ中にも、純粹の事務の仕事の外に、精神的の働を要する仕事、つまり社會奉仕を主旨とする様な仕事をも含んでるのであります、技術的業務には製圖とか。特種品の製作とか、物の鑑識とか特に習熟した技巧を要する仕事の如きはそれであり、併し日本ではまだ精巧な機械の製作とか、また大機械の運轉などに技術的習熟を要する程の仕事にはあまり女子を使つてゐない様であります、私共時々工場などを實地に視察しまして、説明者から聞かされますことは、どうも婦人は機械の取扱ひには適せぬ、何となれば彼等は體力の關係は勿論、第一に機械に親しむ性質が乏しい、轟々たる機械の音響に恐怖を感じるのか、それとも機械は興味が無い爲であるか、兎に角婦人が機械の係を嫌ふのが常であ

ると能く話されるのであります。之に反して手先の仕事は非常に喜ぶばかりでなく能率も上り、非常に巧妙にやつてのけて、我々も傍で其作業を見てゐて、感嘆措く能はざる様なことが屢々あります、それから筋肉的の業務は之を別けて強制服業と任意服業との二つに見ることが出来ると思ひます。或業務に従事する状態が、仕事の上に於て強制されてゐるか否か、即ち自己の意思に依つて手足を休めたり仕事を中止したり又は緩急を圖つたりすることが出来るか出来ぬかに依つて此區別を致します、例へば機械と共に仕事をする労働のやうなものとか、多勢が順序を立て又は一齋にしなければならぬ労働の如きものは之に屬する、それ等は檀に之を中止したり、また手足の動し方の變更すら出来ぬものさへあらうと思ひます、此處に至ると分業の世の中は、人間が機械を使ふのではなくして、機械が人間を使ふ様な奇現象を呈してゐるのであります、併しながら筋肉労働の中でも農業婦人のやうに其作業が比較的任意なものもあまりす、職工労働などでも、組長とか取締りとか云ふ風に、其作業が比較的任意なもの

のもあります、要するに以上は業務を智識的業務と筋肉的業務とに大別し、更に夫れを細別したのであります、此區別も實際になると、如何なる程度までが智識的で、如何なる程度までが筋肉的か、一寸判断に苦しむ様なことがあります。また強制と任意との區別にしても、どの程度までが強制で、どの程度までが任意かは、事實問題として 判定し難い境域があるのであるが、大體より區別して職業を右の様に分類して考へることが出来ると思ふのであります。

更に産業別に依つて分類して見ると、左の八種となつて、夫々之に従事してゐる婦人の數は次の通りであります。

工業及鑛業	九八〇、〇〇一
土木建築	一〇、二三三
商業	四〇〇、〇〇〇
農林業	一、三二五、九二三

水 産 業	三二四、〇一二
通 信 運 輸	三一、一一二
家事使用人	九〇、三五八
公務自由業其他	四二九、五四四
合 計	三、五八一、一八三

(備考) 右表は調査に相當困難を感じたる者にして、或る一定時の靜態を知ることには固より不能事に屬するを以て、成るべく接近したる一定時の現在を知らんことに努めたるも、夫れすら目的を達するを得ず、或ものは大正十年末現在に依り、或るものは止むを得ずして、大正九年末現在に依れる等のことあり。然れども大數に於ては大過なきを信せんとするものなり。唯商業の數字は推測を含むこと多し。

右の各業の詳細なることに就ては、以下段々申上げますが、茲に右表に就て少しく説明を致して置く必要を感ずることを二三申上げます。

近世の産業組織に因る分業の發達が、先づ社會の下層の女子よりして職業の野に送

つたことは前にも申述べた通りであります。漸時中層以上に及ぶに至ては、中層以上の女子は相當教育もあり、修養もあり其處へ持つて來て多少の自覺も伴つてゐるのでありますから、其志す領野が下層の女子とは異つてゐるのは無理ならぬ事であるのであります。前に申上げた筋肉的勞働の婦人は、これは殆ど總て下層階級と云はるゝ婦人によりて占められてゐるのである、然るに公務自由業其他の中の婦人には、中層以上の婦人が多く含んで居る。この公務自由業とそれから商業と通信運輸の中には、智識的とも見るべき階級の婦人が比較的多く含んでゐると云ふ事を申上げて置きます。而して公務自由業其他の内容を申して見ますと、先づ大別に分類しまして、醫務に屬する婦人、教務に屬する婦人、それから社會、宗教、技藝、娛樂、風俗、其他等に屬する婦人と云つた風な、各種の業務に従事する婦人を數へるのであります。

是より細別に入りまして、先づ工業及鑛業に従事する婦人から順次申述べます、
 一、工業及鑛業 工業に従事する婦人は、日本の職業婦人 農業に次での多數を

占めてゐるのであります。一般に之を女工と稱せられて居りますが、女工は我國の職工の約六割を占めて居る。農商務省の統計に依りますと大正九年末現在に於て、職工總數一、七四二、五九一人の中に男工は八七一、三七七人、女工は八七一、二一四人となつてゐます。尤も之は工場法適用工場以外のもの及官營工場は入つて居りませんが、概數は之を以て知ることが出來ます。

女工は年々増加する趨勢がある。併し女工の年々増加する割合と男工の年々増加する割合とを比較すると、それは男工の方の割合が多いことは事實であります。今試みに農商務省統計に依つて、過去に於ける數字（各年一日平均使用職工）を比較すれば左の如し。

年 別	男 工	女 工	計
大正三年	四八八、一九三人	五九七、六一五人	一、〇八五、八〇八人
大正八年	八三〇、三二〇	八八五、三二七	一、六八五、六四七

大正九年 八二六、〇九二 八二八、七九七 一、六五四、八八九

（備考）右表は工場法適用の民間及官營工場を合したる一日平均數なり、大正九年末女工八二八、七九七人中に含む官營工場の女工の數を擧ぐれば、一二五、九六八人にして、其餘の七十萬人餘は民間工場のものなり。

大正九年の數字が大正八年の數字に比し稍減少せるは、歐洲戰爭の終熄に伴ひて、急遽に財界不況を誘致したる結果、其打撃を蒙りたる結果と見るべし

工業に屬する女子従業者の多く生じたことは前にも申した通り、資本主義的生産に基因する所が多いのであつて、そして又此業種に於て最も世上の問題を多く醸してゐるのであります。先づ何故に此の如く女子職工は男子よりも多いか、これは女子は比較的賃金が安く雇入れることが出來ること、今一つは分業が盛になつて、女子に適する業務が増加したことが主たる原因であると思ふのであります。女子の賃金は外國に於ても男子に比し非常に低廉であつて、男子の半額乃至三分の二であること云ふことである。我國の如きも一般に女子は賃金に於ては男子よりも著しく低廉で、概ね男子

の半額以下といふ所が真相のやうであります。自由職業と云はるゝ事務員、技術手などにしても、筋肉労働と云はるゝ日稼労働などにしても、見渡す所、此標準が動かぬ相場の様に見えます。無論例外も澤山ありますが、こんな待遇問題も他の種々な問題と加はつて、覺醒した女子に依つて叫ばれてゐる様であります。

女子は何と云つても永い間の習慣上、手先を働かす仕事に適すると見えて、工場で働いてゐる女工の多くは、矢張り製絲、紡織、などの纖維工業が多いのであります。

工業及鑛業に屬する女子の分野を、私共で調べた所に依ると左の通りになります。

(左表は職業紹介所統計様式に據る。農商務省以外の調査をも含む)

製 絲 工	二八九、六二二人
紡 織 工	三九一、一九二
染 色 工	四、八一四
裝 身 具 工	一〇、五五六

機 械 器 具 工	一一、六四九
船 舶 車 輛 工	二、五三一
電 氣 瓦 斯 工	二二九
金 屬 工 業 工	六、五四七
製 藥 工	一三、二三三
燐 寸 工	一一、六六二
肥 料 工	七四〇
製 紙 工	一三、五九八
製 版 印 刷 工	七、二一七
食 料 品 工	七、七四七
嗜 好 品 工	三八、一五八
其 他 の 工	五七、六三〇

採 鑛 冶 金 鑛 夫

一一〇、八七六

計

九八〇、〇〇一

各種の業別を通じて女子の従事してゐる仕事は、一般に簡易な四肢を働かす業が多いのでありまして、力量を要する作業とか、機械を調節するとか、直接動力を左右して作業するやうな、大ぎやうなことは殆ど無いやうであります。女子は機械と共に仕事することを嫌ふと前に申しましたが、女子に限らない、一體に機械と共に仕事することは、興味の無いばかりでなしに、其音響が實に厭なもので、誰も嫌ふのが常である。併し人のいやがることは金になるものだから、多くは男子が之に當つてゐる。一體分業の發達した今日では、各人の仕事が製作品の部分々々になつてゐて、最初から仕上までの順序を自分で手掛けて、現品の出来上りを楽しむと云ふ様な興味がない、一つの靴を作るのでも、大工場に分業になると、七十人以上も違つた仕事をする人が要るさうである。孔をあける者は孔をあける、釦を付ける者は釦を付けるといふ風

に、一人の人が朝から晩まで同じ部分々々の仕事をしておらねばならぬ。製作品の出来上つた全姿を見ると云ふ機會は少いのであります。さうすると此に十五歳の女があつて三年間同じ工場に勤めたとすると、三年間同じ様な釦付けばかり熟達した腕はあるが、それが一體どんな製品になるのだから知らない。そしてそれが格別嫁入りの足しにもならず、他へ行つて何の利用にもならぬのである。これが分業の缺點であります。また之に伴うて種々の弊害も生じて來るのであります。

大規模な工場ほど分業が多いのであるが、大規模な工場には概ね動力を据付けてあるので、動力使用の状況を見ると、分業の殷盛の有様が略々推測されます。農商務省の調べに依りますと、動力を使用する工場が總工場に對し、漸次増加を示してゐます。總工場に對する動力使用工場の比例は、大正三年は四割六分、大正八年は六割一分、大正九年は六割五分となつてゐます。

右の様な工場に使用されてゐる男女職工の年齢は如何と云ふと左表の通りになつて

みます。

(大正九年農商務省統計)

年 齡 別	男 工 數	女 工 數
十五歳未満	二二二、八〇五人	一一〇、四〇三人
十五歳以上	一六四、一八〇	三七〇、六一四
二十歳未満		
二十歳以上	五四二、四三四	三四三、二九一

右の統計に依ると男工は二十歳以上の者が多いが、女工は二十歳未満の者が多い。殊に十五歳未満の者の如きは男工に比し女工が著しく多いのは、年少者でも出来る仕事が多いこと、雇主が賃金の安い少女を養ふこと、並に裏面から云へば、家庭がこんなたいけな少女をも職業の野に放たねばならぬ程、生計の壓迫があること云ふことを明かに表はしてゐます。これ等の女工は如何なる工業に従事してゐるかは左表之を物語つてゐます。

種 別	(前 同 断)	
	十五歳未満	二十歳以上
染 織 工 場	一〇〇、七〇人	三三三、九〇二人
機 械 器 具 工 場	七二四	四、三五六
化 學 工 場	四、〇八三	一四、〇三二
飲 食 物 工 場	八九六	四、七五九
雑 工 場	三、九三六	一四、三六四
特 別 工 場	一四	一九〇

該表は勿論女工のみを表はしたものであります。就中最も多いのは染織工場であるが、其染織工場にも色々の業種がありまして、女工の従事してゐる最も多いものを順次列記すると

(前 同 断)

業 別	十五歳未満	十五歳以上 廿歳未満	二十歳以上	計
製 絲 業	三九、〇三四人	一四、四五四人	一〇六、一三四人	三九、六三二人
織 物 業	二七、七七七	一〇一、九二五	九二、一〇〇	二三一、七九三
紡 績 業	二九、八六六	七〇、八九七	五〇、九六三	一五二、七三六
撚 絲 業	二、〇四六	五、九九二	二、七五〇	一、七八八
組 編 物 業	一、〇三二	四、四八三	四、五八〇	一〇、〇八四
.....

の通りで日本の女工の多数は、製絲、織物、紡績に集中してゐることが知れます。そして其中以十五歳から二十歳迄の女が最も多いのは注目すべきことである。我國女子の結婚年齢は、十八歳から二十三歳までが最も多いのでありますが、其最頂點は田舎は二十歳、都會は二十一歳となつてゐます。して見ると、女工の大多数は結婚前の者であると云はねばなりません。

結婚前幾年かの發育盛りを、工場生活に費した女子が、やがて結婚して家庭を作り、妊娠する、出産する、その兒が果して健全な良い兒であり得ませうか、之は大なる疑問と云はねばなりません。妊娠するのはまだ善い方で、長い工場生活を續けた女には、妊娠せぬ者が多いさうであります。一體職業婦人が増加するに従つて、結婚年齢が漸時遅くなる傾向がある様であります。これは必ずしも職業に従事することに起因した理由のみでないかも知れませんが、漸時結婚年齢が遅くなり、中にも生涯結婚をせぬ人さへ多くなりつゝある様に思はれます。唯今之に關する明細なる統計を持合せぬことは甚だ遺憾であります。

女工の多くは住込みであつて、通勤は小部分に過ぎません。住込といふのは工場の設備せる寄宿舍に入れるのであつて、これには世間喧しい議論もあることですが、其設備に於て採光の關係通風の關係、保健衛生の方面、修養娛樂に關する施設等、種々遺憾な點が多いのであります。ひどい寄宿舍になると寢具なども大抵は敷き詰め

で、いつになつても上げることには無い。之を萬年床と稱してゐるさうではありますが、その萬年床に非番になつた女工が交代に来て寝るので、随分非衛生極まるものであります。

それから夫婦共稼ごと云ふ職工があつて、夫が或工場へ、妻が他の工場へ行く、朝は未明に起きて、夫婦は共に朝餉を喫して、それから辨當を持つて別れ、工場に行く。今では改善されたが、元は労働時間も非常に長く、又餘分勤務なごて歸宅が互に遅い。朝は暗い内に宿を出て、夜は遅くなつて歸るので、非常に疲れる。炊事も面倒だからと云ふので近所の辨當屋から辨當をさる。疲れてゐるから早く歸つた方が早く寝る。朝も矢張り其通りで、互ひ違ひに出て行くこと云ふことで、夫婦は一日中一言も言葉を交さぬことが幾らもあつたと云ふ。そんな爲に却て自分の夫 妻よりも、他人の同じ工場の職工の方が顔なじみで心安い。ありまり心安くなり過ぎて、つい間違ひを引起すやうになつたなど云ふ話も、一再ならず聞いたこともあります。

最後に需要供給の状況を申し上げます。女工は日本の各縣共大抵分布して居りますが、女工使用数の最も多い府縣から順次に申しますと。大阪の九萬百七人が最多で、次は長野の八萬四千九百人、次は愛知の七萬四千四百十三人、東京の五萬八千六百三十二人、兵庫の五萬四千八百四十五人、群馬の三萬六千三百七十三人と云ふ順序になつて居ます。大阪は紡績業と織物業、長野は製糸業、愛知は製糸、紡績、織物業、東京は紡績、織物、兵庫は燐寸と云つた風になつてゐます。女子が多數工業に従事してゐる府縣別と、従事業別とを擧げると左の通りであります。

府縣別	女子の多數従事する業種	員數
大阪府	紡績	三三、〇二五人
	織物	三三、二七四
長野縣	製糸	八三、二二一

愛知縣	織	績	二六、六二二
東京府	織	績	一一、六一二
兵庫縣	燐	寸	二八、二二五
群馬縣	製	絲	一八、二六九
福井縣	織	物	一四、三四五
埼玉縣	製	絲	一〇、三二三
山梨縣	製	絲	二七、四〇一
			一一、八三二

(備考) 本表は主要なる府縣に於ける多數女子の従事せる業種別及員數のみを示したるものとす。

此等の府縣に於ては女子の需要は供給に幾倍して多いのであります。就中長野縣や群馬縣等製絲の盛な所では、女子が男子よりも勢力を得て居ります、又女工を得ることとは工場を經營する上に大切なことでもありますから、女工を得る爲には相當の費用を使つて居るのであります、女工を募集するには募集員を各地に派遣致しまして、募集員の手に依つて女工を集めて來ます、隨て募集員も非常に多いのであります、山梨縣の調べに依ると、山梨縣に入込む女工募集員は年々何千人と云ふ程であつて、一人で平均六七人位の女工を募集して歸ると云ふことである。長野縣などは八萬三千と云ふ女工が使はれて居りますから、假りに一人が六人の女工を募集して居るものと假定しましても、一萬以上の募集員が八方に散つて居る譯であります、さうしてそれ等の募集員は、頻りに自分の手腕を振つて、或は苦肉の策を執つて居る、女工を得る爲に其父兄を手懐けるとか、金を與へるとか、芝居に連れて行くとか、女工となるべき者に物を買つてやるとか、甚しきに至つては性的の關係を結んで、あらゆる方法を講じて

連れて歸ると云ふ事實があるのであります、是は女工を得ることが如何に困難であるかを明にして居ると思ひます、さう云ふ募集員の手に依つて募集される場合には最初は大抵五十圓位の内金を貸して貰ふ、所が近頃は女工の方でも、其五十圓位の内金を貸して呉れることを利用して、募集員と女工との欺罔の對抗戦があるさうであります、つまり慣れた女工になると踏仆しをやる、五十圓なら五十圓を前借して置いて、後になつて色々の事情が起つていけないとか、或は何所かへ出奔してしまふと云ふやうなことをして、五十圓の金を瞞着したり、二重取りをすることもあるさう あります、さう云ふ激しい女工の募集をやつて居るから経費が大分掛ります、其経費は結局女工の賃銀の上に影響を持來すことになるのでありますから、女工の賃銀としては割合に安いのであります、最近聞く所によりますと八十錢位のものも居るさうですが、先づ一圓二三十錢が多いさうであります、さう云ふ風に女子を誘惑して工場生活に入れやうとするものが盛に在るのであります、此點は男子に於ても同様の事實がある

のであります、工場ではありませぬけれども、恐るべき事實が世の中に行はれて居るので、彼の監獄部室と云ふものなどはそれであり、吾々其監獄部室に引張られた者の實驗談を屢々聞かされますが、それは斯う云ふやり方であり、是は都會地が多いので、例へば淺草公園あたりで、田舎から出て來て、何か職はないか知らぬと思つてラブ／＼して居る、又ベンチなどに腰を掛けて考へ込んで居ると、ごうもそれらしいと思つたら所謂ポン引がやつて來る、色々なことを話し掛けて、煙草なども呉れて、それから兎に角何所か何か食はうぢやないかと言つて連れて行く、さうして大抵是は引掛りさうだと思つたら、俺の知つて居る好い親分がある、其親分の所へ行けば一日二圓や三圓の稼ぎになるから其所へ行つて見やう、又地方にも好い仕事がある、地方の仕事は氣樂に生活が出来るから行かないかと云ふ風にして、一旦親分の所へ連込んだならば二階へ上げる、二階へ上つたが最期、下からピンと錠を卸してしまつて下へ下さない二階では用便でも何でも出来る様になつて居ります、さう云ふ者を

二十人か三十人集めると、之を引連れて北海道とか東北地方の工事の方へ連れて行く、或は群馬縣の山奥の工事の方に連れて行く云ふ風に、特約のある所へ送るのであります、それも普通の働きなら宜いのでありますけれども、行つて見ると勤務は實にひどい、近頃はさうでもないさうでありますけれども、北海道の山奥などになりますと、二人を一緒に働かせて腰 鎖を付けて置く、逃げられないやうに鎖を以て繋いで、之に棒を持つた一人の見張を付ける、開墾をさせる場合などは後へ歸らうとする棒で叩きのめす、さうして山の奥へ奥へと開墾をさせて行く、見張は二重にも三重にも付けてあるから、逃げやうと思つてもとても逃げる事が出来ない、それでも六ヶ月或是一年位経つと歸す事は歸すのだけれども、大抵はさう云ふ勞苦に堪へずして、山の奥に逃げた者、或は死んだ者が多いさうであります、中にはさう云ふことを知つて居て、さう云ふことであるならば先づ前借が出来るから、一つポン引に引掛つてやれと云ふので引掛る者もあるさうであります、其親方は一人連れて來るのには八

十圓位出す、又東京から北海道まで連れて行くならば實費が十九圓ばかり掛る、それを取敢へず本人にも若干の金を與へる、又御馳走をすることもあります、又一人引渡してしまふと、一人に就て若干かの金をポン引の親方から渡すので、さう云ふ風に使つた幾十圓の金は、彼等の働から全部差引いてしまふ。それだから初三ヶ月位は殆ど無料で働くやうになるのださうであります、斯う云ふ事實が殆ど公然の秘密として行はれて居るのであります、其府縣の警察官なども、相當目は着けて居るのであります、然しそれを如何ともすることが出来ない状況に在ると云ふことであります、是は最近大分世間の注目を惹くやうになりましたので、早晚内務省あたりで相當の處置をすべきものだらうと私は思つて居ります。工業の方は其位にしまして、次は鑛業であります。

鑛業の方は所謂女鑛夫であります、農商務省の調べに依りますと、鑛山の仕事に従事して居る者は十萬八千三百人あります、其内容を見ますと、金屬の鑛山の方が

一萬一千九百九十五人、炭礦の方が九萬四千八百八十人、油礦が七百七十五人、其他の鑛山が六百六十人であります。之を鑛夫總數の四十三萬九千五百五十九人に比較しますと、二四パーセント六、になつて居る。即ち鑛夫に於ては女子の方が餘程男子よりも少いのであります。

鑛夫は坑内と坑外との二つに別れて居ります。各鑛を通じて此區別があるのであります。坑内の仕事と坑外の仕事とは夫々異つてゐる。例へば金屬山であれば坑内の業務には採鑛夫、支柱夫、運搬夫、機械夫、工作夫と云ふ様な差別があり、坑外の業務では支柱夫など無い代りに選鑛夫、製煉夫などの業務がある。併しながら金屬山にしても、石炭山にしても、石油山にしても、大體作業の方法は大差がないやうであります。坑内坑外を通じて運搬夫、機械夫、工作夫などは共通に有する業務であります。唯石炭山の坑には後山と稱するものや、石油山の坑外には鑿井夫、汲油夫など稱する異つた業務もあります。

女の最も多く従事するのは炭鑛でつて、に次ぐものは金屬鑛であり、石油鑛其他は極めて少いのであります。炭鑛も坑外よりは坑内に多く働いて居る、女鑛夫の過半數の六萬六千人といふ數字が、炭鑛の而も坑内に働いてゐる者であります。彼等は炭鑛の坑内で後山と稱する仕事に最も多く従事してゐて、此數字だけでも約五萬人はあるのであります。

女鑛夫の年齢別を一瞥しますと（大正九年末農商務省調査）

十四歳未満	三四九人
十五歳未満	一、八九五
二十歳未満	二六、七六三
二十歳以上	七九、二九三

となつて居つて、前に述べた工業婦人が年少者が多いに反して、鑛業婦人は年長者の多い所は、頗る注目すべき所であつて、各其領野に於ける仕事の實質をも推測し得

る感が致すのであります。

鑛夫の生活は汗みごろになつて、社會とは縁遠い坑の内外で男女が共に働くのでありますから、其間、風紀問題も起り易いのであります。英吉利などに於きましても、鑛山の女子には處女なしと言はれて居るさうであります。日本でも鑛山に従事して居る女子には風紀の問題が著しい様に聞いて居ります。

二、商 業 商業に従事してゐる女子と云つても其範圍は極めて廣い、觀方に依つては商會社に傭はれてゐる教師とか、顧問とか番人とか云ふものも、之に屬せぬこともないが、そんな意味でなく店員、販賣員のやうに直接に商業に従事してゐる者のみを茲には擧げるのであります。農商務省の統計に依りますと女商業従事員の數が十七萬四千二百四十九人であります。尤も此統計には六大都市に於ける十人以下の女子使用の店舗の調べは全く抜けて居ります。大都會ではさう云ふ調査は容易でないで、自然調べが出来てないこと、存じますが、然しながら商店の多くは十人以下の女

子を使用してゐるものが多いのでありますから、此統計に脱落した十人以下のものも入れると、此外に二十萬以上あるだらうと云ふことです。全體では約四十萬人になる譯であります。其内容は物品販賣に従事して居る商店員が六萬八千六百七十六人、金融業、銀行の關係の者が三萬三千四百五十人、保險會社の方が四百三十二人、運輸、運送廻漕店等の店員が千四百九十七人であり、其中で夫を持つて居る者は三十五パーセントで、其他は未婚者とか夫に死別れたとか生別れをしたとか云ふ獨身の女子であります。年齢から言ふと二十歳以上が最も多い、次は十五歳以上二十歳未満の者、其次は十四歳から十五歳まで、其次は十二歳以上十四歳未満の者であります。商業の圏内で事業を執つてゐても、其事業が商業に關係のない色々なものがあります。が、それ等は商業としての統計に屬すべきものでなく、各其目的の業別に屬すべきものであると思ひますから、それ等は後に段々申し上げます。

三、農 業 日本では農業婦人が一番多いのであります。尤も農業そのものも極

めて廣汎でありまして、農作、園藝、牧畜、養蠶、搾乳等色々の種類があります。農作に従事する女子は多くは家業の手傳として働いてゐるのであつて、此意味から申しますならば、日本の女子二千七百万人の約半數は之に従事してゐる者であると思はれるのであります。併し前に申しました通り自己の職業として、人に傭はれ又は獨立して働くものに至つては、左程多くはなく前掲約百三十萬人であると思ふのであります。

農村に關する問題は、近來非常に喧しくなりまして、政府當局に於かれても餘程頭を悩まして居られる様である。一體日本では幾何の農家があつて其内容が如何であるかは、何人も知らんとする所でありませんが、大正九年の農商務省の調べに依りますと、農家戸數は五百四十八萬四千五百六十三戸となつてゐて、其中で

自作農	三割一分
自作農	二割八分

自作農兼小作農

四割一分

となつて居り、他人の耕地を小作する者を除き、耕作地を所有する者の戸數は、四百八十六萬一千三百六十戸であつて、その所有地の廣狹に依つて區別すると左の通りになります。

五反未滿を所有するもの	四割九分
五反以上一町未滿を所有するもの	二割四分
一町以上三町未滿を所有するもの	一割八分
三町以上五町未滿を所有するもの	五分
五町以上十町未滿を所有するもの	三分
十町以上を所有するもの	一分

そこで作付段別は幾何あるかと云ふと、三百十二萬六千三百十五町步となつて居ります。一般に所有耕地三町以上もあれば先づ中等以上の農家と見て宜しいが、それが

全體の四分あるに過ぎません。之を戸數にすると約十九萬戸である。そして五反未満と云ふ様な眞の小農は約二百三十萬戸の多數に上つてゐます。近來小作問題が随分喧しいが私の知る範圍では、小作人も苦しいが小池主即ち小農も非常に苦しい。耕作地から上る收穫丈けではなく、生活が維持して行けない、そこで色々の副業をやる農業に屬しない様な副業などをやつて、自然に農作が擲げやりになつて了ふ。娘のある家では娘を工場へ出して働かす、息子のある家では息子を日傭稼などにして、比較的多額の収入を圖るやうにする、さうしなければやつて行けないのであります。一方、日本には主要食物たる米が足りない、節米をせねばならぬとか、外米を攝取せよとか、政府筋の人々までも喧しく叫んでゐるのに、他方には耕地に草も繁茂してゐると云ふ状況であるのは、何たる矛盾した現象でありませう。話は少し横道へそれましたが、さう云ふ様な譯で地方農村の疲弊といふものは、全く想像の外であります。それでありますから農村で困つた人達は皆綜合會に向つて志すのであります。その爲か私

共の職業紹介所も非常に繁昌しまして、此頃中央職業紹介所だけでも毎日二百五十人乃至三百人の求職者がある中に、必ず若干の地方出と目さるゝ人々が見えます。中には一家擧つて地方から上京して、職を求むる様な現象も時々あるのであります。

此に私が不思議な現象であると思ふのは、統計の上から見て、農業に従事するもの、死亡率が非常に高いことであります。殊に男子と女子とを比較すると、女子の方が特に著しく死亡率が高い様に思へる。國勢院の統計に依りますと、各職業に關して死亡の千分比が出てゐますが、それに依ると死亡率の高いのは農林狩獵養蠶業、商業、公務自由業の順であるが、男子に比して女子の著しく死亡するのは、農林獵養蠶業と綿糸織編物の工方であります。一部を抜記して見ると

業 別	男の死亡	女の死亡
農、牧、蠶、林、獵業	五七七・一%	△八〇二・〇%
金屬の製造業	△一四・五	〇・二

機械器具製造業	△ 五・五	〇・一
綿、糸、織、編物製造業	七・七	△三〇・八
土木建築業	△三三・三	—

(備考) 右表の数字は千分比を表はしたるものである。男は男の總職業に就き、女は女總職業に就き、各別々に其死亡數を千分比にて表はしたものである。故に直ちに男と女の数字を對比して男と女の死亡率の高下を論ずることは失當と思ふが、概観して其從業者の多寡や、同時に死亡の關係を考察することが出来る。

農業婦人は蓋し食衣をするのみならず、あまりに勞働が過激な爲ではあるまいか、綿糸織工業婦人の如きは固より當然と思はれるが、それでも比較的農業婦人よりも率が少いのは意外であります。

四、水産業 これにも色々あります、沖へ出て漁をするのもあるし、磯で海草や

海産物を拾ふのもある、殊に此種の業は、副業としてもやるに適するので、海濱の人は農業の片手間に漁業をやると云ふのも非常に澤山あります、農商務省の調べでは、副業としてやつてゐる方が、本業としてやつてゐる者よりも多くなつてゐます。副業としての漁業戸數は幾何であるかと云ふと、三十六萬三千二百五十戸であるが、本業としてやつてゐる漁業戸數は二十六萬五千六百一戸になつてゐます。副業としての従業のことは暫く措き、本業としての漁業従事者總數は六十五萬三千二百七十五人でありますが、其中に女子の從業者は幾何あるかと云ふと、十三萬八千五百三十二人で、總本業從業者に對する約二割に當つてゐる。即ち水産に於ては男子の方が遙に女子よりも多く従業してゐることが知れます。

女子漁業者の多い道府縣は無論海邊に多く面した道府縣に相違ありませんが、就中、北海道は遠が本場だけに女子從業者も最多を示し、本業副業を合して十二萬七千人を數へてゐます。但其中で本業女子は二萬五千餘人に過ぎません。之に次では長崎

縣、鹿兒島縣、千葉縣と云ふ順序になつてゐます。

水産に従事する特殊なものとしては海女と云ふものがあります、是は蟹婦とも書きますが、つまり水潜りをするものであります、是は普通海濱には餘り見受けないやうでありますけれども、然し日本全體から言つたらなかく、多いのであります、現在海女の商賣をやつて居る者は全國に六七千人位ある見込であります、志摩、肥前、安房、伊勢、駿河、朝鮮濟州島方面に多いのであります、一番多いのは志摩の國であります、志摩鳥羽の海女と云へば有名なものださうで、此方面だけでも約三千人あります。あの邊は女が生れさへすれば、先づ財産が出来たと同様で、女の勢が非常に強い、海女で男一人を養へない者は女に非ずと言つて居るさうであります、従つて女子が非常に尊重される、海女の採つて居るものは、鮑、蠔、わかめ、あらめ等が多いが、其中でも鮑に蠔が主なるものであります、大正九年度に農商務省で調べた鮑の採取高は百九萬六千三百三十一貫であります、是は日本全體であります、蠔は百一萬

二千九百九十五貫になつて居ります、金高にしますと鮑が二百十萬九千六百四十三圓、蠔が五十一萬三千三百三十五圓であります、然し鮑にしても蠔にしても、年々幾らかづつ産出量が減少する傾向がありますので、海女と云ふものに對して少しく面白からぬ現象を起して居るさうであります、海女の働く期節は四月から十一月までの八ヶ月間で、其中六、七、八と云ふ暑い月が彼等の最も活動する時期であります、出盛期の時間は朝の八時頃から午後の五時頃までの間に約七時間海へ入つて働く、尤も時々離水して休憩することは無論であります。子供の時から練習をして居るので、水に潜つて堪へ得る時間は非常は長い、一回に三十秒位から長いものは三分位堪へるものもあるさうであります、大體に於て既婚婦人は未婚婦人に比して呼吸が長いと言はれて居ります、尤も是は身體の發達して居ると云ふ、關係もありませうし、又練習を積んで居ると云ふ關係もありませうが概して既婚者の方が長く水潜りが出来る、隨て成績が好いと云ふことになつて居ります、どの位の深さ迄水を潜るかと云ふと、十二三尋か

ら二十尋位ださうであります、以前は深い所へ入るには、勢込めて潜つて行つたさう
 であります、今ではそれは愚なことである、と云ふので、入る時には四貫目位の重
 錘を持つて入つて行つて住事をする、船で沖へ乗出して、船に綱を付けて置いて、入
 つて行くに従つて綱を延してやる、もう好いと云ふ時には下で綱を引、て合圖をす
 る、さうすると船の上で綱を引上げる、此引上げる瞬間の呼吸が極く大事なことで、
 一寸過ると海女の一命にも關するのでありますから、其綱役は大抵有夫の女子ならば
 夫が當つて居るさうであります、未婚の婦人でも近親の人が當つて居る、若し間違を
 生じたと云ふ場合にも、小言を言はないやうにして居るさうであります、年齢は十五
 六歳位から五十歳位までやつて居るものがあるさうです、幼少の頃から海へ投込で、
 水泳もやらせれば色々水に馴れさせる、さう云ふ風でありますから結婚なども女子が
 男子を選択する、男子を物色してあの男ならばと云ふことになつて結婚をするださう
 であります、結婚の支度などは簡單なもので、「いそ桶」と言つて直径一尺か二尺の桶

がありまして、其桶を一つ持つて行けば澤山と云ふ風になつて居る、其桶一つで男子
 を養つて行かなければ女子とは言へないと云ふことになつ居る、それほど女子が數も
 多いし、勢力を振つて居るに拘らず、男女間の風紀はなか／＼嚴格ださうでありま
 す、それは女子が多いから、さうして女子萬能であるから風紀の問題が起ると非難さ
 れる事を厭うて居ると云ふ關係もあるさうであります、村としても處女會などがあり
 まして、非常に女子を訓練して、今日の文化生活に順應して行くには斯う云ふ考を持
 たなければならぬと云ふことが注意されて居るが、つまり指導者が適任を得て居る爲
 でありませう、然しながら海女が婦人の職業として適當であるかどうかと云ふことは
 問題であります、第一労働が過激であります、尤もさう云ふ婦人は體格が良くて、十
 分激しい労働にも堪へるやうになつて居ります、けれども婦人の職業としては労働が
 過激であります、又海水を潜つて塩水に會ふから眼病を患ふ、其他耳鼻を病むものが
 ある、脚氣に罹るものが多いと云ふことです。尙鮑、蠔螺等は年々減少する傾向があ

る、又機械力が發達すれば當然人力に代る運命に在るのでありますから、それ等のごを考へて、海女も近頃は或は養蠶婦として、或は工女として、遠くは朝鮮、東北、それから關東地方に出て行くものが大分あるさうであります、其他色々の方面に出て行くこと云ふ傾向が著しいこと云ふことであります。女が他に出稼ぐこと云ふ傾向に就て思ひました、私共の所へ訪ねて來た沖繩縣の人の話に依りますと、沖繩では女子の賃銀が安い、一日セツセと働いて三十錢かそこらにしかならぬ、敷島二つ位にしかならぬ、それに男は煙草を喫むから女子の働は煙草の煙になつてしまふ、是ではいかぬこと云ふので近頃は外へ出て働かうこと云ふ考が大分起つて來た、此頃は沖繩縣を出る女は一日平均三十人位あること云ふ話でありました、あなたはごうして三十人と云ふことを知つたかと言ひますと、其人は船の出る埠頭に立つて、一ヶ月ばかり毎日數へて見た、さうすると一日平均三十人の女子が外へ出ると云ふことが明に分つたと云ふことであります、獨り沖繩縣に限らず、又女子に限らず、地方の人、殊に農村の人が都

會へ集中すること云ふ傾向は近頃確に著しいのであります、私共の方では時々色々變つた非難を受けるのであります。それは地方の理事官などがよく内務省の會議に出て來られまして私共の方へも立寄られますが、其まゝの話を聞きますと、東京府職業紹介とか社會事業をやるのが、地方から來るものは非常に助かる、然しながら同時に少からず迷惑を感じると云ふのがあります。何故かと云ふと、都會へ出ると色々設備が整つて居るから、都會へ出さへすれば何か好いことがあること云ふ考で無暗に飛出したがる、隨て人心が浮薄になつて困る、さなきだに荒廢しかけて居る農園は、爲に益々荒廢する、是は遺憾なことであると云ふことであります。是は事實であります、然し地方の人心がさうなるのは、必ずしも都會に社會事業の施設が盛であるからでなく、全く今日の社會事情の大勢であらうと思ひます。農村に於ても労働爭議が起つて居る。それに最近中以下の農家は殊の外生活に困つて居る、一方着る物は華美になつて居る、耕地から上る金高は極めて少い。どう考へても百姓をするのが馬鹿々々しく

なつて、百姓をするよりは何か工場の雑役でもする方が宜い、と云ふやうになつて來て、農業の方はともすれば投げやり勝になるのであります。次に通信及運輸に就て申上げます。

五、通信及運輸 先づ鐵道省所管の仕事に従事して居る女子は、大正十一年三月の調べに依りますと六千八百八十二人であります。之を大正八年に比較すると、僅か三四年の間に約二倍になつて居ります。大正八年は三千三百四十六人ありました、それで本年三月に六千八百八十二人になつて居るのでありますから約二倍に増加して居るのであります。此中最も多いのは女事務員で千九百八十六人あります。女の事務員と言ひますと、例へば簿記をつけたり、計算をしたり、傳票を整理したり、荷札を書いたりするのであります。其次に多いのは踏切番人、是は老人が多いが亭主と二人でやつて居る。全國では踏切番の女子が千九百四十人あります。其次に多いのは出札係で五百五人、電話の交換が四百五十八人、其他技術的關係のもの、例へば電信關係のもの

があります、又荷物係、看護、救護、印刷、倉庫番、橋梁の監守、見張番、炭水方、隧道見張番等に従事して居る女子があります。給料は殆ど日給で、事務員の最高が一圓十錢、最低で八十一錢、之を大正八年と比較すると大分上つて居ります。大正八年は最高で五十五錢三厘、最低で三十九錢四厘でありました。其他も一般に上つて居ります。踏切番などは最高で九十一錢五厘、最低で七十二錢四厘になつて居ります。

遞信省管下には女子の従業員が大分澤山あります、大正十年九月の調べでは五萬五千八百七十六人で、此中には判任官、雇員、傭人も含まれて居ります、又本省詰、遞信局詰、簡易保險局詰、郵便電信局詰が皆含まれて居ります。内容は判仕官が千二百六人、雇員が五萬三千七百四十二人、傭人が九百二十八人になつて居ります、遞省管内のことは大體分つて居ることがありますから其位にして、次は民間に於ける交通運輸の關係であります、先づ女子の自動車運轉手及車掌であります。是は全國に亘りましての詳細な調べはまだ出來て居りませぬが、大正十一年五月末現在の東京府下の調

べに依りますと、女子の運転手は日本人が十九人、瑞典人が一名、亞米利加人一名であります。合計してまだ二十一名しかありません。男子の運転手は今の所八千七百四十八人ありますから、之と比較すると問題にならぬほど少ないのであります。東京市内には市街自動車がありました。自動車には車掌と云ふ譯ではありませんが、切符を賣つて居る女があります。是は今の所、五月末の調べですが二百十四人あります。十七歳から二十三歳位のものが多くやつて居ります。女子の自動車の運転手は、同時に家事の使用人として雇はれて居るのが多い、即ち自家用運転手であります。それ等は家事の手傳をして、外へ出る時には自動車の運転をする云ふのが多い、外國人の方は自身自動車を所有して、それを自身運転すると云ふ人があります。其他荷車の方に従事して居るものもありますけれども、確なことは分りませぬ。

六、家事使用人 家事使用人中で最も多いのは女中であります。女中は全國を通じて目下非常に拂底をして居ります。需要が多くして供給が非常に少ないのであります。

職業紹介所などを見ましても女中の需要は非常に多いので、需要は非常に多いけれども希望する者は非常に少ない、女中は寧ろ職業紹介所よりも、桂庵を潛つて行くものが大部分であると思ひますが、兎に角何處でも非常に拂底をして居る、女中のやうな比較的働きのエライ、顎の先でコキ使はれる仕事をするよりも、工場に行くとか、カフェーの女給になるとか、普通の通勤に出た方が宜いと云ふ考を持つものが多い爲に希望者が少ないのであります。女中拂底に關しては、其使用方法の改善や家庭改革などのことにも言及致したいのであります。あまりに長くなるから本日は之を省きました。只今の所で方中の給金はどの位かと申しますと、大正九年の農商務省の調べでは食事が先方持て平均七圓五十錢、其外に仕着せを貰ふとか盆暮の心附を貰ふと云ふことがありますから、先づ十圓から十一圓五十錢位になる、私共の所で取扱つて居るものは、供給が非常に逼迫して居る關係上、十五圓から十八圓、二十圓と云ふ雇入申込もあります。隨て希望者の方も十五圓でなければいけないとか、十八圓でなければ厭

だと云ふ状況であります。もう一つ東京などには派出婦と云ふものがあります、是は女中を得ることが困難であると云ふことから生じた結果考へられたものと思ひます。が、東京市内でも派出婦と稱するものを置いて居る所が三十箇所ばかりあります、派出婦はに色々あつて、例へば主として家事の取締をするもの、保姆の役目、子守のやうなことをするもの、或は家事の雑用をしたり、給仕女となつたりするもの、又病院の看護をするもの等あります、給金は仕事に依つて多少違ひます、保姆や家事の整理をするものは給料も高い、一圓二三十錢から一圓五六十錢を取るのがあります、病院の看護は少し看護の経験のあるものでなければならぬから相當高い或る場合には人の厭がる病氣もあるから、さう云ふ場合は金も澤山取るのであります、派出婦の中には又雑用婦と云ふのがありますが、是はつまり女中であります、然し普通の女中と違ふ點は、勤務の時間であり、派出婦の勤務時間は午前七時から午後の六時か七時までであるさうで、随て夜勉強をしやうと思ふ人には非常に便利なのであります、兎

に角或る時間だけ自由の身になれると云ふ特徴があるのであります、然し之にも色々な弊害が伴ふもので、吾々も屢々其弊害に就て耳にして居ります、けれども中を得ることがどうしても困難とすれば、斯う云ふ方法に依つて行くより仕方がないと思ふのであります。それから次は公務自由業。

七、公務自由業其他 此分類の中には前申した通り知識階級婦人も相當混つてゐます。中層以上の婦人の志す分野の多くは是れであります。醫務、教務、社會公務に嚮ふものゝ中に夫れが多い。此分類の内譯を申しますと、

- 一 醫務に屬する婦人
- 二 教務に屬する婦人
- 三 社會公務に屬する婦人
- 四 宗教に屬する婦人
- 五 技藝娛樂に屬する婦人

五 風俗及社會裏面に屬する婦人
七 其 他

右の小分類は私が假りに勝手に致したのでありまして、固より適當のものとは思ひませんが、少し無理な所は判断をして戴くことに致して、此分類に依つて以下申上げることゝ致します。

醫務に關する婦人、これは知識も要れば相當經驗も要る、從て其職業には準備と訓練とを要することが多大であります。大正九年内務省衛生課の統計に依りますと、

女 醫	四〇四人
女 醫 科 醫	五六
女 藥 劑 師	一〇〇
看 護 婦	三四、七八一
產 婆	三六、〇五五

女鍼灸按摩 二六、〇五五

計 九一、六一五

となつてゐます。第一の女醫は最も學問と經驗を要する職業でありまして、其代り一般の婦人職業と違つて、成績に依つては優に一家を成して、多數の家族を養つて行ける。成功する時には數千圓の年収もあると云ふことでもあります。目下此の方面には相當社會に名を成してゐる婦人も居ります。是は女學校を卒業してから、三年か四年女醫學校に學んで、卒業してから附屬病院にでも入つて相當實習を経ねばならぬ、次に藥劑師は特に藥學や物理化學に關する知識が要る、そして試験の上内務省から開業を許されるのである。看護婦は看護婦養成學校があつて半年か一年で卒業になる。但し實地練習といふことが大切なのであります。人の嫌やがる病氣にも附添つて、親切に世話をしなければならぬのであるから、心の能く碎けた心底に暖か味のある人でなければ出來ぬ仕事である、場合に依つては病氣が傳染して斃れるやうなことも往々

あるこのことでもあります。収入は派出所をして一日二圓位はとれる、家に依つては其他に心附けをする、併し日に依つては派出所のないこともあるから平均月収は六十圓位とこのことである。但し公の病院などに勤務して居るものは安いのであります。何でも一圓内外の日給で勤めて居つて、外に何も貰ひがない、けれども病院では色々な経験が得られるのと、仕事が規則的である爲に、比較的希望者が多いのこのことでもあります。それから年齢はこれは警視廳管下の調べでありますけれど、二十一歳から二十五歳までが最も多くなつて居つて、十八歳、十九歳、二十歳、十六歳と順序になつておる、三十歳以上になると激減してをります。大部分は未婚者で次は離婚者である。學力は高等小學卒業程度が最も多い。

産婆は看護婦に比し年長者が多い。又實際、學術と經驗とを積んだ外に相當の年配に達しないと人の信用が薄いのであります。分娩は母體及胎兒に取つては死生の難境であつて、之を托するのは或意味に於て生命の鍵を托するのであるから、社會人類の

爲に産婆は是非技術の熟達者であつてほしい。こんな譯で産婆學や生理解剖の學術を究める爲、産婆養成學校がある。又病院などで附屬の養成所がある、又それ等は試験を受けた上でなければ産婆の免許は得られない。但し産婆學校でも本科になると無試験で産婆資格を得られることになる。何れにしても自前で開業する迄には、幾年かの實地習熟を要するのであります。東京府下の調べでありますが、産婆資格を得た實際の状況を見ますと、指定學校又は講習所卒業は五十八名に過ぎませんが、試験を受けたものは二千七百九十四名になつてゐます。それから矢張り東京府下の調べに依りますと、按摩が千七百七十九人、マッサージが百五人、灸術が二百二十二人、鍼術が二百八十人と云ふ數になつてゐて、其中、盲が七百二十四人、盲でないものが千六十二人であります。

次に教務に屬する婦人、これは最も多く知識階級婦人の占むる職業であります。大正九年三月末文部省の調べに依ると、所謂女教員の分布状態は左の通りになつてゐま

す。

尋常小學校	五四、七八五人
高等小學校	二、七六三
小學校類似學校	七三三
盲啞學校	八六
師範學校	二二六
高等師範	三四
高等女學校	二、五四一
女學校類似學校	六一一
實科女學校	八六九
徒弟學校	四一一
乙種商業學校	一九

實業補習學校	一、五九一
實業補習類似學校	一三七
其他	一、九一五
計	六六、七二一

給料は女子師範で平均月俸百三圓餘、高等女學校で百一圓餘、小學校になるとずつと下つて、これは東京市の調でありますが、尋常科正教員で六十三圓餘、代用教員で四十七圓餘になつてゐます。高等科正教員は六十七圓餘、代用教員は五十四圓餘と云ふことであります。男教員に比較しますと餘程下つてゐます、男子の尋正が八十八圓餘で、高正が九十圓餘に比較しますと、此の職業に於ては、他の職業と少し趣を異にして男子の給料の三分の二以上にも及んでゐます。女教員は高尚で且つ尊い職業であるが、これも勤勞の方面から云ふと随分業務は樂でないので、教材の整理や、生徒の作品の採點や、種々の研究に堪へず心身を使つてゐなくてはなりません。この業務も

後に述べる社會公務業と共に、社會奉仕といふ精神的要素を備へねば出来ぬことであります。

社會公務に屬する婦人、これには廣く社會的に活動する婦人の中にも、特に社會關係の業務に従事する婦人を申し上げ度いのであります。先づ社會事業に従事する婦人、これは歐米諸國には民間に社會事業が殷盛である爲でもありませんが、婦人が非常に多く従事してゐるやうであります。一體婦人は或種類の社會事業には確かに適當してゐると私は存じてゐますが、日本などはどう云ふものか、婦人社會事業家は少いので、將來はもつと殖ゑて行くべきものであると思つて居ります。社會事業に従事する婦人の數は、私共では正確に分つて居りませぬから、今日は申上げることが控へたいと存じます、東京市などでも社會事業の爲に二三十人の女子を使つて居ります、新聞記者は今年六月の調べで新聞事業に従事して居る所謂婦人新聞記者と稱せられるものが全國に四十七人あります、是は成績の極く好いものは非常に需要がありますが、

誰でも宜いと云ふのではありませぬ、觀察力に富み、筆も立つと云ふ素質を備へたものでなければいけないのであります。又外國には女辯護士とか女の代議士、女の巡査があるさうですが日本にはまださう云ふものはありません、然し日本でも近頃出來た職業に女探偵と云ふものがあります、是は私立探偵社と云ふものがあちこちに在りまして、其所に居るのでありますが、今の所東京市内の女探偵は四名あるさうです。婦人は色々な點に於て便宜がありますので、將來は段々殖ゑる傾向があることである。それから澤山はありませんが猶十分發達の見込あるものに女速記者といふ職があります、外國では婦人職業中の適當なるものとして、女速記者が多いことを耳にしますが、日本ではまだ極く少ないので、其道の人の話に依りますと、十人位しかないさうであります。相當習熟期間を要する代りに、需要も多く収入も五十圓から八十圓位得られるとのこと。静岡縣下には約百名の婦人消防隊が近頃組織せられたることにも聞いてゐます。九州には女巡査もあるこの話ですが如何ですか。

それから宗教に属する婦人、宗教関係の婦人は文部省普通學務局の調査に依ると、一萬二千九十八人になつてゐます。其の中で佛教が各派の住職が千百八十三人、教師及布教師が四千六百十八人であつて、神道の方は各派教師が六千百二十人でありま
す。神佛以外の教師は百七十八人と云ふことになつてゐます。それから宗教ではあり
ませぬが、監獄の囚人に教誨をするとか、女監の取締とか云ふものが、大正十一年六
月の司法省の調べでは、女監取締が二百四十八人、教誨師が七人、教師が四人であ
ります。

技藝娛樂に属する婦人、此に技藝娛樂と申しますのは、主として一般の觀覽に供し
て、公衆を樂ましむる爲めに藝を演ずる者とか、其藝を教授する者、又は其等に附隨
する者等を指したのであります。遊藝師匠とか遊藝稼人とか云ふ者が夫れでありま
す。

遊藝師匠から申しますと、大凡左の通りの種類があります。

女 優	一、〇〇二人
踊	九二九
三味線	三、一一〇
琴	一、三九九
尺 八	一一
琵琶	三八六
其他	三八一
計	七、二一八
遊藝稼人の方は是も種々あつて左の通りであります。	
義 太 夫	八五八人
落 語	二八
講 談	九

浪花節	一九四
源氏節	三四
法界節	五四八
共 他	二、八二二

右は時事年鑑（大正八年末現在）の調べに依つたのでありますが、此の外にも近來は八木節、安來節などがあり、また普通の女優の外にオペラ女優もあります。最近オペラ女優の数は其道の人の話に依ると、全國に二千人はあるとのことであり、其中にはダンス、聲樂、歌劇、奇術などが含んで居ます。彼等は最少十二歳より最長四十歳に至る婦人で、其操行の如きは、一部の者を除くの外は、殆ど言語に絶する如きものがあるさうです。右の外女活辯と稱する者もあるがこれは可なり日本の各地方に行亘つてゐる様に思はれます。東京だけでも九十一名の多數に及んでゐる。試に其教育程度を點檢して見ると、尋常卒業四二、高等卒業三七、尋常未卒業一一、高等女學

卒業三、同未卒業三となつてゐます。彼等の収入は優良の者になると一家を支へるに足るが、普通は出費が多く家計などを持ってぬ連中が多いさうであります。オペラ女優の収入の如きは十五圓位から四百五十圓位まであるとは其道の人の話であります。

活動の女給も若い女の多く従事してゐる業であるが、これも誘惑の多い墮落し勝ちなもので、其代り収入は三四十圓位から百五十圓位になるのもあるとのこと。東京だけでも活動女給は五百九十八名に及んでゐます。

前に述べた外に技藝としては生造花、ミシン、刺繡、編物等、或は裁縫師、衣裝附、割烹等に従事してゐる婦人が多數ありますが、正確な數字は判りませぬ。

風俗及社會裏面に屬する婦人、大變妙な分類であります。此分類に入るべき婦人の中で、近頃流行して來たものは美容術である。これは目下東京市中にも十名近い専門家があつて、夫々弟子數名を置いて仕立てゝゐます。これは習得年限が約一ケ年を要するうで、徒弟の年齢は大抵十八歳から二十歳位、収入も徒弟中でも相當あると

のことであります。之に似たもので異なるものに女髮結、女理髮師があります。女髮結は東京姿社の調査に依りますと、全国の主要の十五都市に於て、之を専業とする者が約二萬五千人ある。日本全國に亙ると恐らく十五萬はあるだらうこのことであります。女髮結は弟子を取るに大抵は年期を定めるので、二年乃至七年に亙つてゐます。現今では美髮學校とか美髮會とか云ふものがあつて、月謝四圓乃至十圓位を取つて理髮を教へてゐますので、漸時美髮術が發達してマツサーチまでおまけに添へることになりました。美容術や髮結や理髮は婦人の職業としては、ふさはしい業務であると思ひます。収入も徒弟上りでも四十圓、腕が出来て花柳界などへ出入する者は月千圓以上にもなるのもあるこのことです。

次に一寸社會の暗黒面に入りますが、かの藝娼妓酌婦であります。これはかゝる席で申上げるも異な様にも感じますが、翻て思ふと隠れなき社會の實相であつて、世人が相當考慮を拂はねばならぬ事柄が、かゝる境地に多いことを注意せねばならぬので

あります。

九年末の内務省警保局の調査に依りますと、全國で藝妓が七萬九百四十六人、娼妓が五萬七百五十二人、藝妓兼娼妓が三百九十一人、酌婦が六萬七千八百二十二二人あります。合計すると十八萬九千九百一十一人になります。

年齢の如きも十二歳未満から四十歳以上に及んでゐます、今其年齢別及娼妓嫁年數別を表示しますと、

藝、娼妓、酌婦年齢調

年齢	藝妓	娼妓	藝妓兼娼妓
十二歳未満	一八〇	—	—
十二歳以上十八歳未満	三、八八一	—	—
十八歳以上二十歳未満	一四、八三九	八、八八七	—
二十歳以上二十五歳未満	一六、八四四	二六、一六六	—
二十五歳以上三十歳未満	六、九六〇	一〇、七〇五	—
三十歳以上三十五歳未満	三、三五〇	二、二三五	—
三十五歳以上四十歳未満	二、一七四	五、八	—
四十歳以上	一、七七七	—	—

娼妓嫁年數調

一年未	一年以上	三年以上	五年以上	七年以上	十年以上	計
一六、七四人	三、〇五人	八、三一人	三、四五人	一、三三人	四五人	五〇、七五人

彼等の周旋は夫々専門業があつて、氣の毒な女子の弱點に乗じて、惡辣な手段が其間に行はれてゐることも少くないのは、悲しむべき事實であります。

話は少し放れますが、先頃東京市の社會局で市内浮浪人の調査をやつた。其浮浪者の群の中にも、數名の婦人が發見されたのであるが、最も我々を驚かしたのは、淺草の吉原附近の或る共同便所で發見した俗稱「土手のお金」と云ふ女であります。彼女は若い時から身を持ち崩し、吉原附近の土手に出沒して、辻瀆賣を行ふことを業としてゐる。年齢は五十四歳とか聞きましたが、前科七十三犯とかある。警官を見ること友達の如くで、拘留などは一向に驚かない。一定の宿所は無く、共同便所の軒下とか塵芥箱の中を自家と心得てをる。最近聞く所によると、又一犯を増して七十四犯とかになつたさうであります。淪落も此所に至ると、憐憫や増惡の念は失せて、只驚異を

感ずるの外はありません。

以上の外に猶私娼などが隨所に存在して、人間性慾の弱所に附込み、旺に風紀を紊亂しつゝあることは此に申すも愚なことゝ存じます。

其他に屬する婦人 其他に屬する婦人と云ふ分類も變ですが、前掲げた何れに入れることもあまり穩當でない、その爲め此に別に抽出した譯であります。その主なるものは藝術に關する婦人で、例へば音楽とか、畫家とか、創作とかゝそれでありませぬ。是等の婦人は、單に其業務に従事し度いと思つても、其道の天才が無くては出來ないので、職業指導施設などが、各種の方法を盡して發見すべきものは其天才的方面であるから、此意味に於て此種類の職業に従事してゐる人々は適材適所に置かれたもので、幸福なる部類の人々であると云へます。その數も幾何あるかは茲には正確な數字を持合せて居りませぬ。畫家で思出したが近來は繪工のモデルになるを專業とする婦人があることである。これは一時的の仕事で永續的に職業には出來まいと思はれる

が、なか／＼さうでなく、次から次と需要主があるので、結構生活を續けて行けるさうです。モデル女は東京などで數十名あるが、美術學校の人の話によると、常に拂底を感じてゐるさうです。

一々少數なものをも列擧するご限りがありませんから、最後にタイピストに就て少しく申しませう。タイピストには歐文と邦文とあります。何れも近年盛んになつた仕事で、殊に邦文は最も新しい流行である。先づ歐文から申しますが、目下全國で幾何のタイピストがあるか明瞭ではありませんが、恐らく一萬人を出でぬでありませう。東京タイピスト學校の調査に依ると、東京市内には三千二百九十一人のタイピストがあります。其中二十一人だけは速記を兼ねてゐることです。タイピストは今より十年以前は需要微々たるものであつたが、歐洲戦争が勃發して、我國の軍需品工業が振ひ、伴ひて貿易や商業も殷盛を極めた大正、五、六、七年頃が最も需要旺盛で、タイピストの引張り夙となつた、それから大正八年からそろ／＼警戒期に入り九年、十

年と不景氣と共に需要減少して、今日では以前の様ではない。併し眞にスピードの確かな腕前の持主は勿論食ふに困ることはない。普通の腕前なら三十五圓から四十圓位には賣れて行く。邦文の方は一寸練習も面倒と見えて従事してゐる人は少い。其代り需要は是からであつて、就職は比較的容易の様である。タイピストは何れも官省公衛會社銀行、大商店等には行渡つてゐて、中には、秘書役などを兼ね、相當高給を取つてゐる人もあるのであります。邦文は目下東京に養成所が一箇所あるが、其處で仕込んで、器械と共に人をも賣込む方法を取つてゐる様である。同養成所の卒業生男女二千四百四十八人の中で、現に斯業に従事してゐる女子は七百八十名あるとのことでありませう。

第五 職業紹介所より見たる女子職業

職業紹介所より見たる女子職業に就き申しするに先立ちまして、先づ職業紹介と職

業選擇との關係を申して見たいと思ひます。自己の天分に適する職業を選擇するといふことは、人生最も大切のことであることは申す迄もありません。然るに職業紹介所に於てこの職業選擇は、如何なる程度迄可能であるかと云ふことの問題であります。職業紹介と云ふことに就きましても、種々の説があるのであります。或は各人の職業選擇の自由の爲に存する施設であるとの考や、或は産業の助長的機關であるとの考など種々ありますが、要するに實際に於て、大多數の失業者を相手としてゐることは事實であります。失業者を就職せしむることを以て大體の事務としてゐる以上は、其處に、眞に天分に適する様な、自由無碍なる職業指導をなすの違なき場合のあることは、固より當然のことであります。勿論職業紹介所は、適材を適所に當筈むるの方針を以て執務を致して居りますが、飢ゑたる者は食を選ばずの道理は、自ら其處に表はれるもので、職業紹介所即職業指導所と云ふ譯にはなく、參らぬのであります。私は職業紹介所の任務は單に失業者の處理に止らず、常時需給を調節することに依つて

失業を防止し、進んで個人及社會の不安を除去し、幸福を招來するものであることを信する者であります。其關係を明瞭にする爲に職業紹介所の發達して來た經路を簡單に申し上げます。佛蘭西の巴里で市會の議決に依つて労働紹介所を設けたのが是れが公營職業紹介所の初であります。それは千八百八十七年でありました。其後英吉利、亞米利加、獨逸等に於て職業紹介所を續々設けらるゝやうになつた。殊に英吉利に於ては國營として、政府の手で徹底的にやつて居ります。それには失業保險も併せて實施して、紹介所の手に依つて失業手當を支拂つて居ります。失業保險は佛蘭西でも伊太利でも獨逸でもやつて居りますが、亞米利加はやつて居りませぬ、日本では研究中であります。是は失業した場合に、失業者に對して手當を與ふることに依つて失業期間の生活を維持せしめて、職に就いたならば失業手當の給與を停止するもので、随つて就職の關係も確實に見て行かなければならぬのであります。英吉利では南阿戰爭後非常なる不景氣になりました。失業者が續出した、それで失業者が多數に存在する

ことは社會の爲に大なる脅威であり不安である、無論本人の爲にも幸福なる所以ではない、社會または國家としては速にさう云ふ不安を防除し、また本人をして早く生活途のを得しめるやうにしなければならぬと云ふことから、千九百五年失業労働者法が制定され、次で又千九百九年に労働紹介法（其後雇傭紹介法と改稱）と云ふ法律が出来て、之に依つて全國を九つに區分して、政府の役人が盛に職業紹介をやつて居る。而して職業の紹介は當初千九百五年の失業労働者法以前は、救貧法に依て處理され、困窮者救済であつたものが、漸次失業防止の意味を帶し來つて、單純なる賑恤救済の意味から轉じて、獨立せる産業上の問題ともなつて來たのであります。我國現在の職業紹介制度は、大體に於て外國の例に準じたのでありまして、昨年四月職業紹介法なる法律が發布され、次で勅令や省令が出て、全國を統一的に同一形式に依り、聯絡をとり、且つ國家事務の性質を帶ぶることとなつて、行はれてゐるのであります。丁度小學教育の事務の様に、本來は國務であるものを市町村長の手に依つて管掌されてゐ

るのであります（公營ならざるものもありますが）。併し勞力の需給調節と云ふことは、今日の日本の國情に於ては容易に言ふべくして行ふに極めて困難なるの憾があります。

職業紹介を勞力の市場と考ふる場合は勿論、之を各人の職業幸福を招來する事業と考ふる場合に於きましても、これに依つて完全なる職業選擇をなさしむると云ふことは、到底十分に行ひ得ざることで、それは自ら別個の職業指導施設又は紹介所の附屬として、別の方法に待つべきものであると信じてゐます。現に東京市の中央職業紹介所の如きは、附設として別に少年相談部を設け、幼少年の將來採るべき職業の相談、學校の選擇、兒童教養上の相談等に應じ、心理學的及醫學的方法を用ゐて、人々の性能を診査し、夫々恰適と認むる方面を指示することに努めて居ります。

今日の日本の職業紹介所は約百箇所ありますが、之に對して營利紹介業者はどの位あるかと申しますと、約七千數百箇所あります。そして此等紹介所又は營利業者がど

の位の取扱をしてゐるかご申しますと、左表の通りであります。

職業紹介所	求人數		求職數		就職數	
	男	女	男	女	男	女
實數	一九、六三二	三九、九〇八	二二、三五九	二二、〇三三	二六、九三三	二二、〇四四
百分比	八・八三	一七・二六	九五・二七	四・八二	九四・三五	五・七四
營業業者	實數 二四六、八五五	二二、三、九四六	五〇九、八四二	二四四、六七八	一五、八五七	四〇、五五五
百分比	四八・四二	五・五七	一〇〇・〇〇	三八・九一	五九・三五	四〇・六四

(註) 本表職業紹介所の數字は(自大正九年七月)一ヶ年間の調査に依る
 (至同 十年六月)一ヶ年間の調査に依る
 營業業者の數字は(自大正十年上半年)半ヶ年間の調査に依る

公益職業紹介所と營業紹介業者即ち桂庵との關係は、公益職業紹介所の方は昨年一ヶ年間の求職が二十四萬九千人、求人が二十三萬二千人、就職が十二萬四千人で、營業業者の方は半箇年分で求職が四十萬人、求人が五十萬九千人、就職が二十四萬二千人であります、之を見ますとまだ公益職業紹介所の方は、營業業者の方の三分の一しか扱つて居りませぬ、然し其箇所數に於て非常な相違があるのであります、營業業者の方は七千何百と云ふ數に上つて居りますけれども、公益紹介所は今の所百箇所以内であります。而も百箇所以内ではだけの數を扱つて居るのでありますから、一箇所の數から見ると非常に多く取扱つて居る譯であります。それから女子がどの位職業紹介所の門を潜るかご云ふと、是も一年間の統計で、大正九年六月から大正十年六月までの求人數三萬九千人、求職數一萬二千人に對して、求職した數が七千人であります、男子に比して非常に差があります、男子に比してどの位の割合になつて居るかは、前表の通り求職が男九十五パーセントに對し、女四パーセント八となつてゐます。又求職者百に對してどの位就職者があるかご申しますと、男子に比較すると女子は就職の率が好いのであります、六〇乃至七〇で、六五位の就職率になつて居ります。又紹介所へ來る女子はどの位の年齢になつて居るか、教育程度はどの位かご申しますと、次の表を御覽になると分ります。

就職者教育程度調 (自大正九年七月一箇年) 至 十年六月一箇年

計	男	女
計	四六	九
專門學	七六	一五
交卒業	八、七三	七六
以上	一〇、四九	七六
中學程度	四〇、九三	三九三
卒業	九、九八	一、六七
同	三、七〇	四八四
中途退學	一〇、三三	一、〇九
高等小	二、四三	一、〇九
學卒業	二、四三	一、〇九
同	二、四三	一、〇九
中途退學	二、四三	一、〇九
尋常小	二、四三	一、〇九
學卒業	二、四三	一、〇九
同	二、四三	一、〇九
中途退學	二、四三	一、〇九
文字解	二、四三	一、〇九
フル	二、四三	一、〇九
文字解	二、四三	一、〇九
セザ	二、四三	一、〇九
ルモノ	二、四三	一、〇九
計	二、四三	一、〇九

就職者年齢別調 (自大正九年七月一箇年) 至 十年六月一箇年

計	男	女
計	一〇	八
未滿	四六	一四八
十二歲	一九、一七	一、九〇
以上	三九、五八	三、二〇
十五歲	二八、八四	一、三三
以上	一八、八三	八五
二十歲	六、五七	四六〇
以上	二、九九	二七三
二十五歲	二、七九	七、四六
以上	一、二四	七、〇九
三十歲	一、二四	七、〇九
以上	一、二四	七、〇九
四十歲	一、二四	七、〇九
以上	一、二四	七、〇九
五十歲	一、二四	七、〇九
以上	一、二四	七、〇九
計	一、二四	七、〇九

是は協調會の調査でありまして全國に亘るものであります。年齢は二十歳以上二十

五歳以下のものが最も多い、其次は十五歳以上二十歳未滿、次が二十五歳以上三十歳以下と云ふ順であります。學力程度はどの位が最も多いかと云ふと、男子の方は高等小學卒業が最も多く、次が尋常小學卒業、中學卒業、高等專門學校と云ふ順位になつて居りますが、女子の方は少し程度が低くて、尋常小學卒業が一番多い、それから高等小學卒業、女學校卒業となつて居ります。高等專門學校卒業は極めて少いのであります。

それから就職する關係であります。是は種類に依つて色々違ひますが、現在求職者よりも需要數の方が多いのでありますけれども、其求職數の半分しか就職が出来ぬのであります。私共の考に依りますと、需要の方が二倍三倍位なければ面白い就職は出来ぬやうに思ひます、と云ふのは、其間に種々條件の不一致がありまして、求める方では年齢、給料、仕事の關係、又求職の方でも學校へ行く關係とか其他色々の關係があつてむづかしいのであります。男子の方は先づ五割五分見當の就職率で、是は

女子の方が多くなつて居ります。

現在就職難と云ふことを言はれて居りますが、是れは就職難にあらずして人物難だと云ふ人もある。併し大多数の人が職を得ることが困難なる點に於ては、確かに總體より見て就職難であるのに相違ありません。一體どの位就職難があるか、就職難を計量することは出来ぬであらうかと云ふことを私共考へて見たのであります、是は無論複雑な原因があることで、一概には申されませぬが、數の関係と質の関係と云ふ見方があらうと思ひます。質の関係は暫く措いて、私共の持つて居る統計に依つて見て、例へば事務員なら事務員を希望するものがある、所がなか／＼自分の希望した事務員の職を得られないといつてごこまでも事務員を固守してゐると職を得ることが出来ないのである。仕方がなく職工になる、これは生計の壓迫から職工になることを餘儀なくされたのである。さうすれば、さう云ふ所に眞の意味に於ける就職難のあることが、統計の上で見ることが出来るのではないかと思ひまして、大正元年から大正八年までの全部

の統計を合せまして、總數二萬四千人の就職者及び最近約五千人の就職者に就て調べて見たのであります。職工、徒弟、小僧、店員、集金人、事務員、書生、看護人、女中、其他數種の職業に就て、大正元年から八年まで、及び最近の數箇月に就て、就職者數を調べて見ました。さうして其中で自分の意思通りに、職工を希望して職工に就職出来ること云ふならば就職は容易なのであります。若し職工を希望しても職工に就職が出来ないとなれば職工の就職は困難なのである、而して其場合、其困難の度は幾何であるかと云ふことであります。最初就職を希望する場合、其希望は背景として本人は自分の素質を考へての上の希望である、自分としては是だけの資格と用意があると云ふ、自己の性能上の背景を持つて居るに違いないのに、それが思ひ通りに行かないと云ふ所に、就職難があると云ふ考へから、就職難の統計資料として此んな表を作つて見たのであります。

(甲表)

職 種	頭書の職 業を希望 せし人員	希望通り就 職せし人員	希望通り就職し 得ずして他へ就 職したる人員	希望人員	希望通り就職	希望外就職
職 工	八、一〇五	五、九一九	二、一八六	一〇〇	七三・三	二六・七
技術手	二〇四	四四	一六〇	一〇〇	二一・六	七八・四
徒 弟	一七六	一一一	六五	一〇〇	六三・一	三六・九
小 僧	三九六	二六〇	一三六	一〇〇	六五・六	三四・四
店 員	三、四三五	一、四〇八	二、〇二七	一〇〇	四〇・九	五九・一
配達人	二、六五二	一、七二七	九二五	一〇〇	六五・一	三四・九
外勤員	八〇六	四六〇	三四六	一〇〇	五七・一	四二・九
集金人	五八	二五	三三	一〇〇	四三・一	五七・九
事務員	二、二二八	八四八	一、三八〇	一〇〇	三八・一	六一・九
書 生	九九八	三九四	六〇四	一〇〇	三九・五	六〇・五
給 仕	二七六	一五一	一二五	一〇〇	五四・七	四五・三
使 丁	九九九	五二七	四七二	一〇〇	五二・七	四七・三

看護人	八六	六六	二〇	一〇〇	七六・七	二三・三
勞 働	七、七四八	六、〇七二	一、六七六	一〇〇	七八・四	二一・六
女 中	一、〇三二	九七八	五四	一〇〇	九四・八	五・二
計	二九、一九九	一八、九九〇	一〇、二〇九	一〇〇	六五・〇	三五・〇

是が果して就職難の統計と言ひ得るかどうか分りませぬが、少くも参考資料にはなると思ひます。之に依りますと、一八、九九〇が希望通りに行つたもの、一〇、二〇九が希望通りに行かなかつたもので、其割合は職業に依つて違ひますが、全般から見ると過去約九年半は平均三五、〇%の就職難があつたと云へるかと思ひます。職工などは割合に思ひ通りに就職が出来る、事務員とか集金人とか、特に人の信用に關係したものは思ひ通りに行かないで、他の方面に就職すると云ふ關係か此所の數字にもよく現はれてゐます、希望通りに行かないで他の方面に就職したと云ふもの、パーセンテージの多い職業が就職難が高いと云ふことになるのであります。

それから過去の各年を通覧して、或る年にはどの位の就職難率があつたが、それから段々多くなつたとか、少くなつたとか云ふ関係を年別に見たのが次の表で、就職難統計資料の乙であります。唯惜いことには、大正九、十の二年分は、統計上の都合から、此資料を得ることが出来なかつたことは非常に遺憾であります。

(乙表)

各年就職難の率 %

	明治十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	最近大正十一年の一部
職 工	二〇、八	二五、四	三〇、八	四三、四	四七、一	二二、九	二六、九	二二、一	一七、七	四九、五
技術手	—	六四、三	八七、五	八四、六	八〇、〇	二〇〇、〇	八〇、〇	七二、四	八五、七	六、九
徒 弟	—	—	五〇、〇	四一、二	五三、四	四二、九	五〇、〇	二四、一	三〇、六	—
小 僧	二〇、〇	四三、二	三三、四	三四、三	五八、〇	三三、三	二〇、八	一八、七	二二、七	四五、〇
店 員	六八、八	六三、七	七〇、三	七二、八	六七、六	四一、六	四六、三	三四、二	一六、九	六六、〇
配達人	六〇、〇	四三、五	三五、四	三八、五	五〇、九	二四、一	二二、三	一八、九	二二、九	六三、一
外勤員	七、七	二二、八	四〇、七	二〇、一	四四、〇	二五、六	三五、三	二二、一	三八、五	八三、四

集金人	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	三三、四	五〇、〇	三三、三	七八、五	五〇、〇	七四、三	三三、三
事務員	六六、六	七六、〇	七七、三	九一、七	九〇、一	六六、四	七〇、九	三四、四	五二、五	五〇、〇
書 生	七五、〇	七二、七	八五、一	八八、九	八五、七	四三、四	七〇、六	三七、〇	五〇、五	四九、七
給 仕	六六、七	五〇、〇	二八、六	五〇、〇	七一、四	四八、二	六〇、〇	七、四	一三、六	五五、四
使 丁	五五、〇	六〇、六	七二、七	七五、九	八九、三	五二、一	二五、〇	一五、四	三三、九	五三、三
看護人	—	一四、四	六六、七	三三、三	五〇、〇	—	—	一四、三	—	三八、九
勞 働	三七、八	二二、一	一四、七	一〇、五	一一、二	二二、八	一九、二	二〇、六	二五、九	三七、九
女 中	三〇、〇	三三、一	一一、四	二二、八	一五、一	三三、〇	—	—	—	六、二
全般率	五九、六	三四、七	四二、一	三七、三	四二、四	二八、一	二九、七	一八、四	二四、八	四九、八

此表は数字の高い程就職難の度の高いことを意味するのであります。全般率で見ても明かであるが、大正七年は就職難が最も低く、大正四年の四一、四に對して、一八、四の數を示してゐる。大正八年になると二四、八となり、大正十一年になると、これは上半期中の一部分(約五千人の就職者に就き調べたるもの)に過ぎぬが、四五、八

と云ふ從來にない高い率を示して居ります。

こゝで記憶を喚起して頂き度いことは、大正三年末歐洲戦亂が勃發して、大正四年に入り財界が急に不況に陥つたことである。それから五年、六年と景氣が挽回し、大正七年に至り景氣の絶頂に達して、輸出貿易の殷賑や、軍需品工業の繁榮で、職工や事務員の就職難が大に輕減されてゐる事象が、此表の上にも現はれてゐるのが面白い。例へば職工に就て見ると大正元年には二十五パーセント七と云ふ就職難の割合であつたのが、大正二年には三十四パーセント八大正三年は四十二パーセントで段々就職困難になつて居ります。大正四年は四十七パーセントで一層困難になつた、所が大正五年になりますと二十一パーセントに下つて居る、就職が割合に易くなつたのであります。大正六年には一層下つて十六パーセント、大正七年の好景氣時代には更に十二パーセントに下つてゐます。大正八年になりますと又少し上つて十七パーセントになつて居る、九年、十年は不明であるが、最近の調べは四十九パーセントに急轉直上

してゐる。之に依つて見ましても、此二三年は年毎に不景氣になつて、工場などは非常に警戒して、閉鎖や縮少したやうな所も多いので、失職者が著しく増加してゐるかからさう云ふ年には就職も非常に困難になつて居ることを明かに示して居る。更に集金員のやうな人的信用に重きを置くものに至りますと、景氣のよい時でも猶五〇パーセントと云ふ比較的高い數を示して居りますが、女中などは前には多少困難であつたが、大正六年から八年までは就職難なし、女中を希望すれば必ず就職出来ること云ふことになつて居ります。只最近に於て、六、二の就職難を見てゐるのは、これは寧ろ女中の方で選り好みをする結果と判定をして宜しいのであります。以上の統計數字は職別を仔細に見ると、まだ列擧したる外にも、種々職業別がある筈でありますけれど、類似の職別は一に吸収して、右の種別に止めたのであること、及び各種職別は男女を合したるものであることを特にお断りしておきます。

第六 求職婦人の新傾向

刻下の求職婦人が如何なる種類の希望を持つ人が多いかを考察する資料として、最近市設職業紹介所へ訪れた求職婦人中の約一千人に就き、其希望の多い職別の順序に依り列挙しますと左の通りになります。

- | | | |
|-----------|--------------|--------------------|
| (1) 事務員 | (2) 女中 | (3) 何でも宜しい樂で金になる所へ |
| (4) 裁縫見習 | (5) 女工 | (6) 女給仕 |
| (7) タイピスト | (8) 筆生 | (9) 家庭教師 |
| (10) 嫁母 | (11) 家政を握りたし | (12) 看護婦 |
| (13) 薬局生 | (14) 女徒弟 | (15) 集金人 |
| (16) 留守番 | (17) 小使 | (18) 乳母 |
| (19) 女秘書 | 等 | |

東京あたりでは職業婦人を希望するものは、高等女學校卒業位が可なりに多い。そしてそれ等の婦人はどう云ふ職業を希望するかと云ふと、一般の事務に従事したい、また何か社會的の事業に従事し度いと云ふのが、近來著しい傾向の様であります、社會的事業に従事する爲には給料などは問ひませぬ、なごご云ふ希望を出して來るものが可なりに多いのであります。又それと反對に成るべく金を多く取りたいと希望するものもかなり多くある。概して今の求職婦人は、職業に就き乍ら何か修養をして向上を圖りたい、夜間學校へ遣つて貰ふとか、裁縫を習ふとか、琴や活花を習ひたいと云ふことを條件として希望するものが非常に多いのであります。これは一般に知識慾に目ざめて內的充實を圖らうとの考を持つ者が多くなつた爲ではないでせうか。高等女學校卒業生で女中を希望するものもありますが、それも大抵は夜間修養の時間を與へて貰ひたい或は晝間半日とか三時間とか修養時間を與へて貰ひたいと云ふ希望者が多いのであります。もう一つ是は私共憂ふべきことではないかと思ひますが、近頃雜

誌とか新聞とかに刺戟されて、無暗に職業婦人が増加する傾向がある、それ等の婦人の思想として、婦人も職業を持つべきものであると云ふ考を持つて居るものが、地方などには随分あると思ふのであります。私共の手許へも地方の婦人から來る手紙が毎日十數通位ありますが、それが大抵、約來は婦人の職業が非常に必要と思ふ、それだから是非何か適當な職を見附けて知らせて呉れと云ふのであります。中には父兄が考が少し舊い、ごうも理解のない結婚を強ひるやうな傾があるし、自分が職業に従事しやうと云ふ考を壓迫するので困る、是非此家庭から免れたいから、何とか考へて呉れと云ふのが随分あるのであります、先頃も四國の方から私に手紙を親展で寄越しまして、外の人には見せて呉れるなど云ふことを一番冒頭に書いて、私は學校の成績も好く學校の先生から頭腦が明晰であると言はれて居るし、相當の理解があるからハツキリと仰つしやつて戴きたい、私の考に依ると、女子は職業を持たなければならぬ、嫁に行つても夫に死別れるとか、夫が職業に離れると云ふことがある、ごうしても外へ

けな出ればならぬタイピストでも一般の事務でも社會事業でも宜いから何とか心配して貰ひたい何とか御便宜を計つて戴きたいと言つて來ました、私は地方からさうして出て來やうと云ふ人に對しては、第一に其考はよしなさいと云ふ返事を出す、若しごうしても東京へ出たいと云ふ女があるならば、女中におなりなさい、女中をしながら修養の餘暇のある所がないことはない、其他で出やうと云ふのは間違であると言つてやるのであります、何故かと云ふと高等女學校卒業位では給料が安い、三十圓前後であります。タイピスト等の技術が少しあるとしても四十圓位のものでありますから、東京ではとても獨立して生活することが出來ないのであります、危険なる誘惑もあるし若い婦人の獨立生活は困難なことである。それ故其御考はやめなさい、親達と相談をしなさい、若し東京に保護者でもあれば其人を頼つて御出でなさいと言つて返事をするのであります、四國の人に向つても、あなたの御考の職業婦人として職を覺えて置くこと云ふことは宜いか知れぬが、然しそれは餘りに心配し過ぎる、嫁に行つて夫に

死別れるか分らぬ、或は夫が職業に離れるか分らぬと云ふ者は、周到で宜いか知れぬが、十七八歳の處女のうちからそんなことを心配しないでも、嫁入前として色々修養すべきことがあるのだから、其方に頭を向けなければならぬ、最初から夫に別れた後のことなどを考へるなんと云ふのは、慎重にすべき結婚と云ふ考に反するではないか尙能く考へなさい、況んやタイピストであるとか事務員などを望むやうな孝では宜しくないと云ふ返事を出した。所が能く分りました、私は色々外國の本を翻譯したものを讀んで、どうしても婦人は職業が必要であると思ひましたが、能く孝へて見ると人間の不幸は何時來るか分らぬ、心配すれば限がない、外へ出ても自動車や電車や自動車がある、何時怪我をするか分らぬ、それを心配したら外へも出られぬ、あなたの言ふことは道理であると思ひますから孝へ直しませうと言つて來ましたが、それなりになりました。どうも地方の人は職業と云ふものに憧れて居る。實情を知らないで職を求める人の多いのは遺憾である。又危険であると思ひます。それから他の一部に

は収入を逐うて走ると云ふ傾向も大分あります、私共紹介の係の者が求人カードを手に持つて求職者に應接してゐますと、其カードを眺めつゝ、そつちのカードの方は給料は幾らですか、こつちは幾らですかと言ふ者が多い、女中でも十二圓の所よりも十五圓呉れる所へ行く、大體女中の希望は家族の多い所を避ける、それから収入を孝へると云ふ傾向が確に在るのであります。男子の方にも此傾向があるのであります。此の如き要求の少かるべき女子にもさう云ふ傾向が大分見えるのであります。無論是は今日の時勢に於て已むを得ないことと思ひますが、兎に角さう云ふ風潮が見えるのであつて、収入を逐うて走る結果は、或ものは甚しく憂ふべき現象をも惹起するのではあるまいかと思はれます。

尙色々申し上げたいことありますが、豫定の時間も経過致しましたので、今日は是で止めます。

職業指導上卷 終

大正十三年七月十五日印刷
大正十三年七月二十日發行

上卷 定價各金貳圓

不許	職業指導	複製
----	------	----

著作者 文部省

編纂者 文部省內 社會教育研究會

右代表者 伊藤

發行者 東京市牛込區揚場町壹番地 社會教育協會

口座東京六七〇一九

右代表者 外松荒三

印刷者 東京市神田區錦町一丁目十九番地 孝井芳藏

發賣所

東京市日本橋區
本銀町三丁目

東京寶文館

東京市牛込區
揚場町一番地

帝國書院

振替口座東京二八〇

振替東京六七〇一四

印刷所 東京市神田區芳文堂

文部省内 少年團日本聯盟編纂 社會教育協會發行

震災に關する教育資料 美事善行

洋裝全一册
定價金壹圓五拾錢
送料金八錢

本書は大正十二年九月一日に起れる關東大震災當時或は社會の爲に或は罹災者の爲に或は家族の爲に或は友人の爲に或は主家の爲に危險を冒して救助に盡力したる美事善行數百件を詳細に調査蒐錄せるものにして、非常時に於ける我が國人の犠牲的精神奉公的精神を遺憾なく發揮し一讀人をして感奮興起せしむるものあり學校に於ける講話資料として將た一般家庭の教訓資料として絶好の讀物たり。

發賣所

東京市牛込區揚場町
振替口座東京六七〇一四
東京市日本橋區本銀町
振替口座東京二八〇

帝國書院
東京寶文館

終

